



社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2009 11-12月号

【トピックス】

支部紹介特集(前編)

【座談会】

企業創業の経験から
名工大・名古屋工業会の未来を考える

【交流コーナー】

エンジニアの卵である皆さんにお伝えしたいこと

【学生コーナー】

私の国、リビア
パリからナゴヤへ 交換留学生として

【情報ネットワーク】

会員ニュース

パズル

No.432

発行 社団法人名古屋工業会

(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>



平成22年 名古屋工業会東海地区新年互礼会

恒例となりました東海地区新年互礼会を名古屋支部主催、三河、尾張、岐阜、三重の各支部協賛で下記の通り開催いたします。ご多用中恐縮ではございますが、ご出席賜りますようご案内申し上げます。

日 時：平成22年1月10日（日）12:00～14:00
場 所：名古屋工業大学 大学会館1階 大食堂
会 費：3,000円

ご出席下さる方は12月18日（金）までに次の各単科会連絡幹事までお知らせ下さい。

| | | | | | |
|-------|-------------|-------------------|-------|-------------|------------------|
| C E 会 | 牧野 繁保 (C58) | TEL 0567-37-0946 | 名晶会 | 山田 正明 (K45) | TEL 052-735-5307 |
| 光鱈会 | 宇佐美智伯 (Ah6) | TEL 052-704-6137 | 計測会 | 大鑄 史男 (F49) | TEL 052-735-5393 |
| 巴 会 | 伊藤 克彦 (M57) | TEL 052-872-9354 | 経友会 | 仁科 健 (B50) | TEL 052-735-5396 |
| 電影会 | 三宅 正人 (E60) | TEL 090-3581-4472 | 情友会 | 松尾 啓志 (J58) | TEL 052-735-5446 |
| 双友会 | 森川 民雄 (W45) | TEL 052-751-6855 | 翼 会 | 小鹿 良雄 (K23) | TEL 0561-72-4071 |
| 緑 会 | 緑 静男 (D42) | TEL 059-232-1829 | D F 会 | 渡辺 秋義 (S17) | TEL 052-701-5825 |
| 名窯会 | 大門 啓志 (Y46) | TEL 052-735-5286 | | | |

支部連絡先：

| | |
|-----------------|--|
| 森川民雄 | TEL052-751-6855、FAX052-751-6855 |
| E-mail | Tamio_Morikawa@jetro.go.jp |
| 名古屋工業大学大学院ながれ領域 | 山本勝宏 TEL052-735-5277、FAX052-735-5277 |
| | E-mail yamamoto.katsuhiko@nitech.ac.jp |

平成21年度兵庫支部総会、講演会、懇親会のご案内

日 時：平成21年11月29日（日）16：00から

場 所：ホテル日航姫路（姫路市南駅前町 姫路駅南側すぐ）

内 容：講演：加藤 恵之氏（K44 白鷺特殊鋼）「仮鉄の歴史について」その後、総会&懇親会
〈特に、兵庫県西部にお住まいの方はふるってのご参加をお待ちしています！ご連絡は代表幹事まで〉
連絡先（代表幹事）上村芳大（M55）（川崎重工業明石工場 078-921-1561 uemura_yoshihiro@khi.co.jp）

名工大次期学長候補者に高橋実氏を選出



名工大は、松井信行学長の任期が来年3月31日で満了するため、10月14日の学長選考会議において次期学長候補者として高橋実氏を選出した。

任期は平成22年4月1日から4年間

【高橋実氏略歴】

昭和24年4月生 60歳 工学博士
昭和50年3月 東京大学工学系研究科 資源開発工学専門課程修士課程修了
昭和50年4月 名古屋工業大学 助手
平成6年4月 同 教授
平成16年4月 同 副学長
平成18年4月 同 理事
(専門分野) セラミックスプロセッシング 粉体工学 応用レオロジー

表紙写真説明

「夕暮れ」

20号館の西側の非常階段からたまたま綺麗な夕焼けに巡り会ったので夢中でシャッターを切り続けたときの1枚です。色は後処理で若干誇張しております。

撮影者：黒柳 奨 (EJ ③)

トピックス

支部紹介特集にあたって

(社) 名古屋工業会
常務理事 二杵幸夫 (K39)

ご存知のとおり、(社) 名古屋工業会は国立大学法人・名古屋工業大学の全学同窓会として、本部における大学・学生支援はもとより、全国20支部による卒業生各位の情報交換の場としての活動が展開されていることを忘れてはならない。母校名古屋工業大学が国立大学法人として自活の道を歩み始めたなか、公益法人法改定への対応を含め、(社) 名古屋工業会のあり方も一考を要する事態となっている。これまで、大学との連携強化の名のもと、大学支援・学生支援に偏った事業推進が目立っているが、全学同窓会本来の活動目的である「卒業生のための」活動強化が待たれる。そんななか、会誌「ごきそ」についても、卒業生各位の活躍の状況など、会員各位からの原稿で賑わうのが理想であるが、残念ながら、原稿集めに苦勞されている広報委員会の委員各位であり、結果として大学の近況を伝える記事が多くなっているのが実態である。

支部総会に参加させていただくなかで、全国各地で活躍される同窓生各位の姿・声を見聞するにつけ、会誌本来の主旨に鑑み、これら支部の実情を伝え、卒業生同士の情報交換機能強化の一端を担うべく、支部特集を企画するに至っ

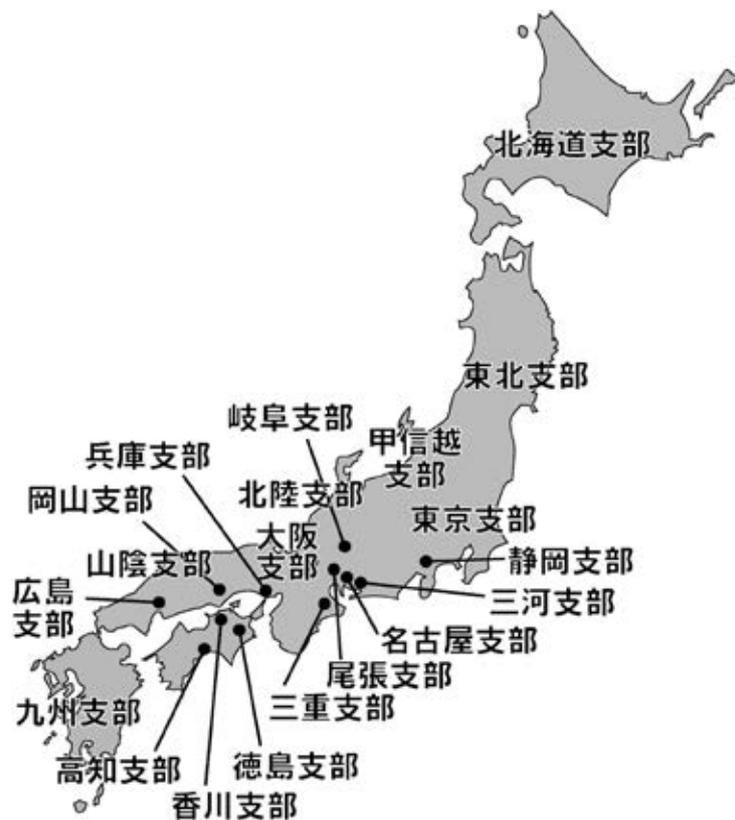
た次第だ。名古屋・東京・大阪という大きな支部以外でも、同窓生の情報連絡・支部活動の活性化に努力されている状況を肌で感ずると同時に、新たな法人三法のもとでの支部体制のあり方、活性化施策を探る意味からも、全国各地の支部活動の現状を紹介しあうとともに、課題認識を共有化し、新法人法のもとでの名古屋工業会—全学同窓会—のあるべき姿、支部支援のあり方を探っていきたい。

り方を探っていきたい。

本部を含め、各地の支部組織でも、共通する課題認識は、「若手の参画をたかめる」ことにあるようだが、(社) 名古屋工業会の活動を活性化させ、存在が認知されることがその解決策であるものと考え、会員支援、大学支援、学生支援のバランスを考えた事業運営を展開させたいので、会員各位の建設的なご提案を期待する。これら活動

の根幹にあるのが、卒業生各位の情報を集約した名簿管理、メンテナンスにあるので、単科会名簿との名簿統一・共有化に向けて活動を開始したい。

今回は東日本の各支部について紹介します。
西日本の支部は次号以降に掲載します。



北海道支部 —母校への思いを込めて「北鯨会」—

名古屋を代表するものに何があるだろうか。人によって思い浮かべるものは違うだろうが、やはり名古屋を代表するものは名古屋城と金の鯨ではないだろうか。名古屋工業大学で学び現在北海道に住んでいる卒業生が、青春時代を過ごした母校を思い、北に住む鯨の集団として活動しているのが「北鯨会」すなわち北海道支部である。なにぶん名古屋から遠く離れた地域のため会員数は多くないが、約40名の卒業生が北の地で活躍している。会員の多くをC科、A科の卒業生が占めている。これは卒業後、旧建設省や北海道庁などの官公庁に就職したのに伴って北海道で勤務し、そのまま北海道に住んでいる人が多い。また少数だが、北海道出身者でUターンして活躍している人もいる。

支部の活動としては、11月の第2土曜日（この頃より北海道のゴルフコースが閉鎖されるため、集まりやすいとの理由でこの日に決めている）に札幌で総会、懇親会を定例的に行っている。なにぶん広い北海道のため集まるだけでも大変で、参加者は15名程度だが、年に1回顔を合わせるのを楽しみにしている人が多く、“すすきの”での2次会も含めて大いに懇親を深めている。同じ大学を卒業したというだけで、学んだ年代も何十年も違っていても、初めて会ったときから親しみを感じるのは、母なる母校のもつ魔力だろうか。

北海道支部の課題として会員数の減少がある。卒業生の高齢化が進みご逝去される方が出てきている。また、従来のように就職がきっかけで北海道に住むようになる人が減ってきている。さらに、入試制度の変更に伴い、北海道より名工大へ進学する学生がほとんどいなくなってきた。そこで、支部として数年前から卒業生で終身会員になる人に会費の半額程度をめぐりに補助をしている。数を増やすことも重要だ

が、量から質への発想の転換が必要となってきているのかも知れない。よく言われているように、同窓会は親睦の他に何をすべきなのか。すで



三田村好矩 (F41) 支部長

に母校では、同窓生が講義の一部を担当するしくみが始まっていると聞いている。このように卒業生が現役学生と直接接触するのは、お互いに刺激になると思う。このように制度上しっかりしたものでなくても、年1回開かれる総会時期に合わせて、ある特定の卒業年度の卒業生が、母校のすべてのクラスでいっせいに、講義（話）をするような機会を作る「ようこそ先輩」のようなことをやっても良いのではないか。このような母校との関わりを作るのも同窓会の役割ではないか。

入試制度の変更に伴い現在は東海三県の高校生で入学者の大部分を占めるようになってきている。これ自体悪いこととはいえないが、やはり日本はもとより広く世界から学生が集まるのが望ましい。北海道から名工大を見てみると、名古屋との間に無数の大学があり、わざわざ名工大まで行かなくてもと思っている高校生や、名工大の存在自体を知らない高校生が北海道では多い。日本のものづくりの中心地で、ものづくり、人づくり、未来づくりを掲げている母校の意義は大きく、是非北海道でも高校生へ広報活動を積極的に行ってほしい。また、北海道の高校からの指定校推薦入学制度や同窓生の子弟の優先入学など思いきった制度の改革も検討してほしい。

北の地より母校のますますの発展を祈って。

記：三田村好矩 (F41)

東北支部 —唯一残る産業おこしの東北地方—

みちのく東北の四大祭りは、例年8月4日の青森ねぶた祭りを皮切りに、秋田竿灯、山形花笠おどり、そして8月6～8日に仙台七夕まつりが開催され、終盤を迎える。この四大祭りが終わると東北地方は、実りの秋、そして足早に北将軍がやって来る。岩手では、5月に藤原まつり、福島では、旧正月に日本一の大わらじ祭りが行われる。工業会会員の皆さまも是非、みちのくの観光と秘湯の探訪をお奨めする。

東北支部の範囲は、宮城県（仙台市）を扇の要とした前述の岩手、青森、秋田、山形、福島の6県で、面積6万6950平方キロ、全国面積の17.7%を占める広範囲の区域である。

現在の所属会員（非会員を含む）は宮城県（59名）、福島県（26名）、岩手県（21名）秋田県・山形県（各14名）青森県（8名）の計142名である。定住者は限定的で、転勤移動者が多い。遠隔地であり、母校との絆は薄れがちで、「具体的なメリットがない」として入会の賛同が得られ憎い環境にある。正会員は宮城県20名（内終身15、会員5）を筆頭に正式会員は計31名、入会率は約22%で支部目標の25%を下回っている。

東北支部の沿革と推移については、No.346（1998年、10月号）東北支部特集を参照されたい。支部の設立は、45～46年前に、口伝えによる同窓生の存在情報を基に「同窓生の親睦と情報交換」を目的に、自発的に昭和40年秋、有志13名が集って、東北支部設立準備会を開催したことに始まる。支部長に清水建設・東北支店長 亀山武雄（A5没）を推挙し、東北支部が発足する。この設立趣旨を本部に報告、正式に名古屋工業会東北支部となった。（当初宮城・福島・山形と岩手・秋田・青森の2支部構想もあったが、「1支部に統合した方が機能面から得策」との意見を具して、東北支部になったことも追記したい。）

初顔合わせは、昭和41年11月開催、19名が参加、東北地建、東北電力、東北大学（名工大から進学した金属の院生5）、建設会社、ソニー、東



栗村滋雄 (C29) 支部長

北観光センター（名鉄系）、仙台防衛施設局、などの面々であった。二代目の支部長には、昭和48年3月、亀山武雄氏（A5没）の専務榮転に伴い、五洋建設・仙台支店長持川充夫氏（C7没）をお願いし、引受けて頂いた。東北支部所属会員は、高度経済成長の波に乗り、会員の流入・流出が顕著な時期で、会員の实態把握は、各科単位での追跡調査により名簿管理に遺漏なきように努めた。現在もこの方式を継続している。東北開発関連（建設省・新幹線・仙台市地下鉄）で土木会員が増え、東北CE会を昭和53年2月、昭和54年9月に夫々行っているが現在は工業会1本に絞られ、実施していない。三代目支部長には、持川氏の昭和54年3月役員退任に伴い、支部会員の推挙を受け小生、栗村滋雄（C29）東北電力（株）・電源立地部部長（その後東北発電工業（株）・常務取締役、現在・建設コンサルタント技術顧問）が引受けることとなり、爾来30年に亘り支部長を仰せつかっている。支部設立世話人をして爾来44年の長きにわたり工業会の活動に関与している。工業会の記録保持者ではないかと思っている。母校創立80周年記念の年、昭和57年11月、佐藤知雄理事長を迎えて支部総会を開催した。会員数は155名、総会参加者は34名で共に、東北支部の最多記録になっている。東北CE会・光鱈会合同の支部懇談会を昭和59年12月に開いている（参加者CE会10名、光鱈会6名の計16名）。その後は、実施

していない。

定例的な活動は支部幹事会（各科代表）、支部総会（特別講演会・懇親会）、ゴルフ大会春／秋2回（支部長杯）、忘年会、などを行っている。あらゆる機会を利用し、会員の動向調査（出・入）並びに会員入会促進活動を実施している。

支部の問題点・懸案事項は支部の範囲が広く、総会招集通信費（県外を含む非会員）など経費が嵩み支部運営費を圧迫している。極力Eメールを採用し、コスト削減に努めている。非会員に対する通信費は会員増強の一環でもあり、支部交付金とは別枠で交付さるべきものと思っている。隣接県との連絡旅費もなく意思疎通が回り嫌い状況にある。会員が仙台地区に集中しており、持ち回り総会は無理で、支部活動は仙台中心にならざるを得ない。

支部所属会員の動向は、移動会員が多く2～3年で移籍するため、名簿管理に苦慮している。支部所属会員の変動状況は、経済動向に左右される傾向があり、昭和41年支部設立時は46名、昭和49年度は建設省、国鉄、建設会社の会員の流入が目立ち128名、昭和57年度は所属会員数155名、総会参加者34名で共に最多記録を保持している。昭和62年度は所属会員数137名、平成4年度は104名、平成5年度は94名と昭和57年時点より61名減で、著しく減少している。平成6年度は111名、平成10年度は108名、総会参加者20名（正式会員は終身17、会員11名の計28名）で、内訳は仙台周辺居住者が主で、メンバーは絞られてきている。平成14年度は所属会員135名と増加傾向、会員増強特集号発行年でもあり、支部長名で会員入会促進要請文を発信している。平成21年度の所属会員は142名、（正式会員31名）と増加傾向にある。このことはサブタイトルの「唯一残る産業おこしの東北地方」を物語るもので、エネルギー基地と海外進出企業が、海外の賃金コスト上昇・エコ新製品

開発などを背景に、今までソッポを向いていた東北地方が再認識されたことを意味するものである。現に青森県では、原発建設・原燃サイクル施設の建設が、岩手・宮城では東京エレクトロンの進出、トヨタ系の企業が環境技術のHV、燃料電池など新技術対応可能な工場建設を着々と進めている。これらの現状から、東北支部の将来像は工場の操業に向けて工業会会員の流入は必至で、先は明るいのが心配でもある。

名簿管理は移動者が多いため、異動時期に各科単位で情報を収集し、総会前の幹事会で名簿整理・管理している。工業会本部に対する要望は大学と連携のもと、新卒者の就職先（所属支部）を含む名簿作成・管理をお願いしたい。

大学に対しては、全国区で優秀な学生を募集できるシステムの構築が必要と思う。論文発表・特許など有名大学にランクインされるよう祈念する。学生に対しては、就職後の安心・安全は、どの地方にも工業会支部があるので、心配は無用、必ず支部に連絡することをお願いする。未入会員に対しては、母校との絆は切っても切れないことを自覚され、同窓生の団結と母校の更なる発展のため、正会員になって頂きたいと念ずるものである。

記：栗村滋雄（C29）



東京支部 ―活動の現況と課題、美しい人脈構築は最大の財産!―

東京支部は東京都、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬の一都六県に在住の卒業生（内 正会員984名）で構成されています。役員は、小田支部長（E36）以下副支部長2名、常任幹事19名、幹事9名、相談役7名、支部参事1名、支部監事2名の41名で支部の運営を分担しています。役員は11の単科の出身で、東京支部をもつ単科もあります。支部定期会議は4月と9月に事業報告・計画と総会準備などを議題にして開催しています。また、本部で開催される理事会、評議員会・総会には理事（4名）、評議員（16名）、参与（4名）の方が参加します。

支部が実施する最大の行事は11月に開催する支部総会・懇親会で、毎年150名程度が東京駅から近いKKRホテル東京に集い、来賓として学長、教授および理事長、常務理事に出席いただき、大学を取りまく話題を広く披露して頂いています。懇親会は単科会ごとに設置されたテーブルを囲み和やかに盛り上がります。残念なことは“比較的”若い方々の出席が極度に少なく、年々出席者総数が減少気味になっていることです。支部の課題は如何にして“比較的”若い方、平成年度卒業生の参加を増やすかと言うことです。

人脈は第一線の後半になるとますます重要性が増し、第2の人生においては楽しみを倍増させる重要な要素になりますが、必要と感じたときに短期間で構築できるものではありません。同窓生との交流は利害関係のない美しい人脈を構築できる一番の近道です。総会・懇親会はじ

め次に記す支部行事への参加をお勧めします。案内は「ごきそ」および工業会ホームページに掲載されます。



小田征一郎（E36）支部長

- ◆ごきそサロン：卒業生の方に大学、企業で研究された事柄あるいは蓄積された経験談などを、年2回八重洲倶楽部で発表いただくサロンです。中には深く探求された趣味のお話もあり、未知の世界を知る楽しみが得られます。
- ◆エクスカージョン：関東近郊の名所旧跡を日帰りで探訪するもので、毎回大先輩の参加が多くあり、比較的若い参加者からは“元気を頂く”と言って好評を博しています。22年度は5月15日（土）に観光バスで茨城県の「袋田の滝」を訪ねる予定です。
- ◆東京棋友会：毎土曜日に八重洲倶楽部に集まり対局を楽しんでいます。年1回は九州工大との対抗戦もおこなっています。
- ◆東京ゴルフ会：年4回、東京近郊のゴルフ場に20名内外が集まり、コンペを開催しています。ここでも大先輩の方々の活躍が目立っています。この10月には200回記念エクストラ大会が開催されました。

記：藤井賢一（D36）

1) 東京支部が会員となっている八重洲倶楽部（東京駅八重洲地下街 TEL：03-3275-0801）は、ロビーでの待ち合わせ、娯楽室での囲碁、麻雀などで利用できます。有料会議室は会員2割引。利用時間は10時～22時、日曜祝日は休み。

甲信越支部 —支部紹介—

甲信越支部は新潟県、長野県、山梨県の3県にて構成されています。

会員数： 会員数94名

(終身会員63名 正会員31名 甲信越
在住卒業生351名)

支部役員： 支部長 : 茅野正澄(長野県)
副支部長: 星野正三(新潟県)
副支部長: 若林俊樹(長野県)
副支部長: 佐藤昭夫(山梨県)

新潟県、長野県、山梨県の県代表が副支部長として各県の活動をまとめる仕組みとなっています。

支部としての定例活動： 支部総会の開催に併せて見学会及び懇親会を泊まりがけにて年1回実施しています。昨年は2008年9月28日～29日：新潟県直江津港に於いて、上越火力発電所建設地の見学会、妙高市関温泉にて総会、懇親会を開催致しました。総会出席者11名、来賓として本部より篠田陽史理事長にご出席頂きました。

最近の話題： 平成19年度に支部長及び副支部長が変更となりました。支部総会等への参加者を増やすために新たな活動を模索しております。第1弾として長野県にて毎年開催の小さな地方工業展「諏訪工業メッセ」に母校ブースの誘致の検討を開始しました。本年10月17日には支部総会前に工業展の見学会を実施し、他大学の様子も参考に、今後どの様な形で名古屋工業会支部・名古屋工業大学・地方工業/商業団体との具体的な協力関係が築けるか、その可能性を探ります。

支部としての懸案事項、支部活動を広げるための工夫： 幾つかの懸案事項に対応しながら支部活動を広げていきたいと考えております。

1. 「新潟、長野、山梨の交通面での不便さが存在する。」

当支部は3県にまたがり、物理的な配置が原因となる交通の便の悪さという理由により、会員が集うことの難しさを持っております。東北・九州他同様の悩みをお持ちの支部もありますので、他支部の活動も参考に、逆転の発想にて単独の県でない所が支部の良い特徴になるよう、即ち、幅広い(同一地区でマンネリ化しない)見学会や懇親会の実施が可能であることを未参加者にアピールしてい

きたいと考えております。

2. 「比較的若い層(40代以下)の参画が極端に少なく、特に中規模以上の企業

勤務者の支部活動への参加が殆ど無い。リタイアされた方、公務員、自営業者の率が高く、一般企業勤務者の参加が低くなっている。甲信越地区からの新規卒業生が減少し、名古屋を中心とした東海地区、東京大阪の大都市圏と比較しますと、活動はどんどん沈滞化してきている。」

支部の活性化を図るため、若い方々も参加しやすい活動を考えて参ります。大学及び本部の協力を得ながら、今後新入会員の方たちにも、支部の存在を強く認識していただき、非会員の方にも出来るだけ門戸を広げて活動に参加していただける環境を作り、その後会員として参画していただく道を作ってまいります。具体的には、現役で仕事をされている方(一般的な勤務時間に拘束されるという意味で)に参画していただく動機付けを考え、名刺交換会のようなイベントにより、同窓生であることをきっかけに仕事の助けになる、または新たなビジネスチャンスを生む機会となる等、有形無形の利益となる事も模索してまいります。

また、甲信越支部のインターネット HPを簡単な構成にて立ち上げ、本部及び他支部へのリンクを張り、インターネット多用世代に支部活動の認知及び積極的な参画のお願いを検討してまいります。さらに、E-mail活用により在校生、新卒者、未加入会員、支部の活動に参加していない会員へのメッセージ発信を容易にしております。一方、若い方々だけではなく、仕事に一区切りついて、新たな生活パターンに入られる方に参画していただけるような支部活動も平行して検討してまいります。

甲信越3県内に在住の方で、まだ甲信越支部総会等に参加されたことのない方、どうか気軽に一度ご出席下さい。

記：茅野正澄 (K55)



静岡支部 —今後の展望—

本支部は全県域をカバーしますが、静岡県は東西160キロメートルと長く、浜松：西部、静岡：中部、沼津：東部を中心として、それぞれの気質も異なると言われていています。本県での名古屋工業会の会員数は、卒業生名簿によれば800名弱が県内に在住されていますが、同窓会の案内を出しているのは220名程度です。正、終身会員は180名弱を数えますが、必ずしも同窓会案内者とは合致していません。

早くから諸先輩のご尽力により静岡支部は活動しておりましたが、途中中断の後、思いの深い先輩諸氏の後押しを受け、平成17年7月の総会から新支部活動を再開し、年2回の事業を実施し5年目を迎えました。支部長はC49卒の山之上、副支部長は西部のEs49卒の藤井氏、事務局長C52卒の玉木氏を主たる役員とし、東中西の各地域にバランスよく役員を配置して運営しています。

定例の活動として、第一は、定期総会を毎年7月に県中部の静岡市内で開催しています。毎回来賓として学長ならびに工業会理事長にご足労いただき、総会の格を高めていただいています。総会と懇親会の間には講演会を実施し、主として各界でご活躍の同窓生に演者をお願いしてタイムリーな話題提供をいただいています。第二は、12月前後に開催するテクノフォーラムです。この取り組みは、会員から推薦された2名がそれぞれの専門とする分野での報告をいただくもので、若い会員が大いにこの会の主旨をお汲みとりいただき、相互交流を楽しく実感してもらうことを主たる目的としています。そのため東部、西部で交互に開催し、場所も温泉地などテクノフォーラム以外にも楽しめる企画を心がけています。これまで西部4名、東部2名の、6名の方に話題を提供していただき、今年は東部で開催する予定にしています。

支部の問題点・懸案事項は「会員の増強」ですが、5年が経過し、毎回の参加者数が30名強で推移していることです。案内発送数220名（メール連絡はそのうち60名程度）のうち13～15%が参加され、ほぼ当会の認知度は高まってきたものと確信します。現役で役員として活動することから、身の丈で当面運営していくつも

りです。財政的にも、年間運営費は会費と交付金を有効に活用し、繰越金が若干残る程度です。

今後当支部がさらに拡大・発展するためには「ひと・もの・かね」に尽きるのではないのでしょうか。OBが学生数を増やすため支援協力する私学の学生向相談会を各地で開催することも視野に入れる必要があるでしょう。静岡県は首都圏、中京・関西圏に挟まれており人の動線は活発で、今後学生を確保するためどうアピールするか、サテライトオフィスを県内に設置していただき、大学と一体となり工業会が支援することも一案でしょう。今後支部が拡大進化することは、大学の生き残り作戦とも深く関与すると思えます。

一方で、テクノフォーラムのような取り組みを有効に活用して若い会員の着実な定着を図ることが必須で、日ごろからの情報交換などに時間が割ける環境づくりを今後考えていきたい。そのための経費については積極的に支給することも必要でありボランティアでは長続きしないと思う。WEBを利用したホームページなども試行していますが、管理者、経済上の問題も多々あり、本格的に機能するに至っていないのが実状で、今後の課題です。本部は大学との関係をより密にし、大学の生き残り、発展をバックアップするための具体的な方策を提示していただければ、今後の工業会、支部の方向性もおのずと見えてくるのではないのでしょうか。

最後に、大学の独自性を発揮しながら、今風の学生気質を考慮して、活発なクラブスポーツへの支援も視野にいれ、強化のため他大学との交流などで補完する体制も今後必要となるでしょう。なぜなら伝統あるクラブは常に競争力を保ち、結果を残すことで世間の耳目を集め、さらには、これから志願する学生にも強烈なインパクトを与え、本学志望に大いに期待できると確信します。 記：山之上 誠（C49）



山之上誠 (C49) 支部長

名古屋支部 —支部の活動について—

平成20年4月より双友会（高分子：W）が幹事を引受けて参りましたが平成22年3月迄の間、工業会の最大支部としての活動状況について申し述べます。

（1）支部範囲

支部範囲は、愛知県のうち、名古屋・春日井・小牧・瀬戸・尾張旭・東海・北名古屋・清須・知多・大府・豊明・日進・半田・常滑・弥富の各市、豊山・長久手・三好・東浦・阿久比・武豊・美浜・南知多・蟹江の各町、飛島村となっている。

（2）支部会員状況

関係卒業生は約12,300名との事ですが、正会員数は年度会費納入者数と終身会員数で3,300名（加入率約27%）と、毎年同様な状況となっているので、各科で更なる会員増強を計りたい。

（3）沿革

過去の総会先については次の通りである。

| | | |
|-------|------|----------------|
| 名窯会 | H 4年 | 中津川中核工業団地 |
| | 5年 | 名古屋港水族館、名古屋港一周 |
| 名晶会 | 6年 | 安土城跡 |
| | 7年 | 郡上八幡城 |
| 計測会 | 8年 | 各務原航空宇宙博物館 |
| | 9年 | 長谷寺、室生寺 |
| 経友会 | 10年 | 彦根城 |
| | 11年 | 浜名湖館山寺温泉 |
| CEクラブ | 12年 | 上野フレックスホテル |
| | 13年 | 飯田観光ホテルよし乃亭 |
| 光鯨会 | 14年 | 彦根プリンセスホテル |
| | 15年 | 奈良ホテル |
| 巴会 | 16年 | グランドホテル浜松 |
| | 17年 | 名鉄犬山ホテル |
| 電影会 | 18年 | ホテル竹島 |
| | 19年 | 遠鉄ホテル |



市橋洋志 (W40) 支部長

双友会 20年 高山グリーンホテル瑞祥
21年 伊勢二見旅荘海の蝶

（4）支部組織

- CEクラブ（土木：C）
- 光鯨会（建築：A）
- 巴会（機械・生産機械：M）
- 電影会（電気・電子：E/ES）
- 双友会（高分子：W）
- 緑会（工業化学・合成化学：D/G）
- 名窯会（無機材料：Y）
- 名晶会（金属：K）
- 計測会（計測：F）
- 経友会（経営：B）
- 情友会（情報：J）
- 翼会（航空：K）
- DF会（数学：S）

となっている。

（5）主だった役員

市橋洋志支部長（W40）、森川民雄幹事長（W45）、沼田長之総務（W40）、高木幸治会計（WH5）、山本勝宏庶務（WH6）、杉本英樹庶務（WH6）のメンバーで取り仕切っている。

(6) 定例の活動

- (1)名古屋支部総会と見学会(平成20年・21年9月)
 - (2)東海地区新年互礼会(平成21年・22年1月)
 - (3)工場見学研修会(平成21年・22年3月)
- となっている。

(7) 支部の問題点

総会開催地については、近隣の地区は、ほとんど出掛けており、今後の開催場所は、支部会員の希望に添うよう努力すると共に参加人数の増加を計る必要がある。

(8) 支部の懸案事項

各単科会とのコミュニケーションを取るため、どのような方法でタッチ出来るかを考慮しなければならない。

名簿管理及びホームページ、刊行物などは協力出来るものは一緒に実施する事が出来れば、よりよいものとなるであろう。

(9) 名工大との関係

各単科会の大学の先生方と一体となって新しい研究発表を積極に進めて行きたい。

(10) 将来像

名古屋支部が工業会の中心として益々活動出来る様にするには、工業会本部と一体となって、新たな事業開催をはかり、新しいアイデアを持って、会員並びに名工大在校生にアピール出来る様にする必要があり、その為には、会員の有する知識や経験を各種施策に活用、名工大との協力関係を進め、奨励金等の資金援助が必要ではなかろうか。これ等によって、在校生・新卒者・未加入会員に広く知らしめる事こそ、将来の展望が見出せるのではないだろうか。

記：山本勝宏 (W⑥)



平成20年度 名古屋工業会名古屋支部総会
(木下副学長挨拶)



平成21年東海地区新年互礼会 (篠田理事長挨拶)



平成21年東海地区新年互礼会
(学長による恒例の“もちつき”の様子)



平成21年度 名古屋支部総会 (海の蝶)

尾張支部 —支部活動の活性化を目指して—

1. 支部の概要

《支部の範囲》一宮、愛西、江南、犬山、稲沢、岩倉、津島の各市。丹羽郡、名古屋支部以外の海部郡。

《支部の会員数》正会員752名、非会員2150名
合計2902人（2009/9/2現在）

《沿革》『ごきそ』No.379（2001. 9月号）一宮支部特集号で紹介しました。昭和8年2月21日からの金銭出納簿が残っており、76年余の歴史があります。その後、平成14年6月に津島支部より合併の申し出があり、本部に連絡。同年10月26日の本部理事会で承認。同年12月7日の支部役員会で『尾張支部』と改称し、今日に至っています。

《支部組織》

| | |
|------------|---------------|
| 支部長&本部理事 | 玉田欽也（W32） |
| 支部参事&本部評議員 | 井上富夫（D28） |
| | 丹羽信男（W38） |
| | 服部重夫（Y43） |
| 支部参事 | 7名 魚住養正（W22）他 |
| 支部幹事 | 7名 小川勝彦（K35）他 |
| 支部監事 | 1名 合計 19名 |

2. 定例の活動他

役員会 2回、総会&懇親会 1回

《支部総会》

前記支部特集号で昭和28年1月以降の「一宮支部総会開催状況一覧表」を掲載しております。昭和28年の参加者が74名、翌年からは20名～50名余。しかし、昭和61年以降20名を切る状況になり、平成元年には15名と憂慮すべき状況になりました。平成6年4月、小生が支部長に選任され、当時の支部正会員200名余にアンケート

（過去の参加状況、開催希望曜日、共催行事など）をお願いし、回答者は95名。その結果を参考にして、平成7年1月開催の役員会で、総会のあり方を検討。特別講演、ミニコンサートを共催する、懇親会は立食式に変更することにしました。毎年の状況は『ごきそ』に掲載していますのでご覧のことと存じます。総会に参加して楽しかったと思っただけのよう心掛けており、お蔭様で新旧入れ替りつつ50名前後の参加者で開催しています。

《最近の話題》

昨年10月に参加者25名で、三菱電機(株)稲沢製作所の見学会を開催し、工場見学とエレベーター試験塔（いなざわ173.0m）からの展望を楽しみました。今後も会員各位の意向を踏まえて行事を計画します。

《問題点&懸案事項》

昨年4月の役員改選で19名の役員の内8名が新任でした。参加者増加を喫緊の懸案事項として支部活動の活性化を図っていきます。

3. 総会参加のお願い！

在校生、新卒者、未加入会員の皆様にも支部総会に参加していただきたいと考えています。会員の方の誘いが無くてもお気軽にお出掛け下さい。楽しさを味わった上で、正会員になっていただくことを期待しております。

記：玉田欽也（W32）



玉田欽也（W32）支部長



平成20年度支部総会 ミニコンサート



平成20年度支部総会 記念撮影

三河支部 —支部紹介—

愛知県の三河支部は、会員数約1300人を擁し、日本のものづくりを代表する企業で活躍する卒業生並びにOBの方々を中心に活動しています。

この地域にはトヨタグループの大部分が拠点を置き、多くの会員がトヨタ関連の企業で活躍しています。

現在の支部長は昭和51年機械工学科修士課程卒業の森下洋司さんです。森下さんは(株)豊田自動織機の常務役員で、現在、三河支部の運営業務は(株)豊田自動織機の「職域」で担当しています。

「職域」とは、三河支部の地域に拠点を置く企業内の同窓会組織のことを言います。この地区の企業25社に職域があり、三河支部の大部分を構成しています。支部の組織構成(図1)は、この「職域」の組織と、企業に属さない会員を束ねる「地域組織」(たとえば刈谷市を地域として管理する組織)、支部長、支部幹事らで構成しています。

企業内の職域組織は企業をリタイヤしたOBも職域会員として管理・フォローすることとしており、職域役員がその企業のOBに対して支部活動の情報展開をしています。

支部の主な活動は、名古屋工業大学の発展を応援すること、会員相互の親睦を深めることを主な狙いとし、①本部活動への参画②支部総会③懇親会、講演会④懇親ゴルフコンペ⑤大学への寄付金納付などを行っています。支部総会では例年、理事長、学長をお招きして、我々の活動について報告を行っています。

例年、50名前後の出席があり、活動報告、会計報告を行った後、付帯行事として講演会、懇親会を行います。前回の講演会では日本交通医学工学研究会 名城大学理工学部教授 中野倫明先生をお招きし「高齢ドライバの運転能力の診断と向上を目指して」という演題

でお話頂きました。高齢者ドライバーの問題が議論になるこの頃であり、松井学長はじめ参加者の好評を得ました。また懇親会では、学長、理事長のご祝辞を頂き、また飛び入りの挨拶もあり、大いに盛り上がります。

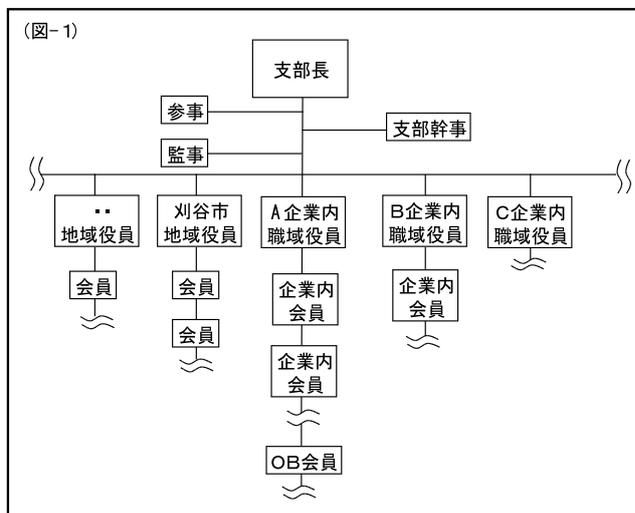


森下洋司 (M51) 支部長

最後に、ピアノの伴奏で全員で校歌を合唱し、クライマックスを迎えます。同窓の縁、一体感を感じる瞬間です。また毎年秋に開催する支部懇親ゴルフコンペは、職域役員を中心に30名前後の参加で行っています。

支部の課題は、会員増強と支部会員全体のフォロー体制の確立と考えています。三河支部の25の職域は支部会員の全体をカバーできていません。また退職された方のフォローが十分でない職域もあります。職域でカバーできない会員は地域役員がカバーする構想ですが、不十分なのが実情です。これらの課題を解決し、さらに力強く名古屋工業大学をサポートできる三河支部になっていきたいと考えます。

記：松坂勝彦 (D61)



座談会

企業創業の経験から 名工大・名古屋工業会の未来を考える

去る7月31日、名古屋工業会館サロンにて、名古屋工業大学OBで企業創業経験のある皆様にご集まりいただき、ご経験を伺いました。お話はお仕事についてのエピソードから、さらに名古屋工業会と名古屋工業大学の将来へのご意見へと広がり、大変有意義な会となりました。

参加者：（司会）名工大名誉教授、(有)超音波材料診断研究所代表 川嶋紘一郎（M40）
 (株)N C A P 代表取締役 富岡達也（博士後期在籍）
 (株)ワールドテック 代表取締役社長 寺倉修（F50）
 (株)コネクティボ 代表取締役 平野智裕（EJ⑫）
 (有)来栖川電算 取締役 山口陽平（I⑬）

産業戦略工学専攻教授、(有)梅テック 代表取締役社長 梅崎太造
 情報工学専攻博士後期課程 大浦圭一郎（I⑰）
 名古屋工業会 常務理事 二枚幸夫（K39）

川嶋 皆さんお忙しいところ、お集り頂きまして有難うございます。本日は討論会形式で皆様のご経験や、さらには名古屋工業会や大学へのご意見をいただき、会誌「ごきそ」を通じて発信しようということで場を設けさせていただきました。

私は5年前まで名工大の教授をしており、またVBL長や名古屋工業大学研究協力会の立ち上げにもかかわった関係で、本日の司会を務めさせていただきます。工業会の会員と学生が繋がっていくためにはどうすればよいか、この会が少しでも役に立てばと思います。今は世界も日本も不景気の真ただ中にあり、今後の日本がどのように変化があるか気になるところです。名工大の役割も含めて卒業生の活性化などを考えてみたいと思います。

皆様のお仕事やご経験をうかがう前に工業会についてのお話を名古屋工業会常務理事の二枚さんからお願いできますか。

変化する工業会の役割

二枚 名古屋工業会とはどういうものか？簡単にいえば全学同窓会であり、大学を出られた方で入会金と会費を納めた人で構成される団体です。大阪工業会といった地方の財団法人とは全く違い、名古屋工業大学の卒業生と教職員及び学生からなる仲間の集まりです。今まで仲良しクラブやロータリーのような感覚でしたが、それではもったいない。せっかく色々なところに卒業生が活躍されているのだから情報交換の場にすればいいと思います。実社会の経験を学生に伝えることで早く社会になじめたり、その後の成功に繋がったりすることで学生支援になると思います。ベンチャー的に企業を興そうとするときにも必ず力になれるそうです。そういったことから工業会を変えていきたいというのが私の思いです。

今後は学生の支援から卒業生同士の支援へと広が



左端：梅崎氏から時計回り：平野氏、山口氏、寺倉氏、富岡氏、二枚氏、大浦氏、川嶋氏

ることを期待しております。この先、定年退職される方が大量に出てくると思われそうですが、その方々の第二の人生、職業を考える機能が工業会に求められております。そういう意味で本日の集まりは大変興味深い企画だと思っています。

学生時代のアルバイト経験から起業へ

川嶋 では平野さんからお願いできますか。

平野 会社自体は10年目になり、名工大の電気情報工学科出身です。父は地元の刈谷市の地方公務員で、今年60歳の定年を迎えるサラリーマンの家庭に育ちました。親からいい大学に入れといわれ、いやいや勉強をし、名工大になんとか入学しました。自分自身で会社を興そうと思ったこともなかったのですが、きっかけは大学一年生の夏に初めてアルバイトをしたことです。地元のイベント設営のアルバイトに応募して肉体労働で夏を過ごしました。その時、やぐらを組んだり椅子を並べたりしましたが、「こういうのは自分に合っていないな、もっと得意な分野でお金を稼ぎたい」と強く思ったんです。その夏は乗り切ったのですが、次は得意な分野でと思いました。

当時はパソコンに困っている人がいたり、インターネットも駆け出しの頃で接続に四苦八苦している時代でした。いろんな所でパソコンの出張サポートに呼ばれて、それが何か自分に合っているなと思いました。そうこうしているうちに色々相談を受けるようになり、Java講師できる？とか、プログラム書ける？とか、得意でないところまで相談されるようになりました。たまた同期にJavaの得意な友人がいたので、彼にこんな仕事してみない？と仕事を紹介しているうちに徐々に仕事のためのチームという



平野 智裕 (EJ⑫) (株)コネクティブ 代表取締役

H12 在学中に(有)ともクリエイティブ設立。

H20.4 株式会社化、社名変更。

Webシステム開発、サーバ・ネットワーク設計・構築・管理、コンサルティング業務を実施。特にデザイン、使いやすいUI設計、大規模アクセスに耐えるWebシステム構築等。大学時代のアルバイト経験から一念発起して創業。

感じになりました。

自分も友人も大学院に進学を決めましたが、その友人が大学院を卒業して一般企業に就職してしまうとチームも解散になるなあと考えるようになりました。その頃はとても自由に仕事できていました。仕事の打合せだけ授業の合間や休日に出かけ、その他は自由気ままに自宅や研究室を仕事場にしていました。このままの延長線上でルールも無く自由に働けるライフスタイルというのは幸せだと考えました。失敗した時が怖いとも思いましたが、たまたま自分は大学院に進学しながらでしたので、いけるところまでやってみて、だめだったら何食わぬ顔で戻って「新卒です！」と主張すれば良いと、思い切って会社を興しました。

会社を興し信用力が高まり、いけるという感触がでてきましたので、大学は休学し本腰を入れて会社を運営することにしました。一緒にいた仲間も中途半端なままでは来てもらえませんが、会社を整えて仕事のある状態で正社員として迎えられるようにしました。今の会社で取締役の開発部長をやっている彦坂は大学の同期なのですが、彼を自分より半年遅れで休学に巻き込んでしまいました。大学での研究成果を会社にとというのが理想でしたが、そこまできず2年の休学期間を経て退学の道を選択しました。彼も自分より半年遅れで退学し我が社に入社しました。現在では20名の社員でウェブのシステム開発をメインとしている会社になりました。

川嶋 得意なところはどんなことですか？

平野 自分自身、元々大学に入る前、中学、高校からパソコン通信にかなり没頭しており、自分でホスト局を運営して電話番号も持って、会員も200名程集めて、コンピュータを通じた人とのコミュニケーションがすごく好きでした。インターネットも大好きで、大学1年の時に当時やっと家庭に引けるようになったインターネット専用回線を引いて夢のようなサービスだと思いながらアルバイト代をつぎ込み、仕事とは関係なく人を集めてサービスしたいと思いながらやっていました。

ウェブのシステムというのは苦勞して開発したものが世界中の誰にも使ってもらえるということがすごく魅力的です。それが今ウェブに特化している理由なのですが、人と繋がるコミュニケーションツールを開発したいと考えています。

梅崎 ウェブ開発会社は今ものすごい数です。随分前ですが経済産業省から頼まれITベンチャーのイエローページを作ろうということになった時、当時

85%位は潰れるのではないかと予想しましたが実は90%に達しました。最初は各企業もウェブ事業に先行投資するのですが、だんだん大手企業は内部に部署を設けて外部に委託することがなくなってきたと思うのです。今の業界はどうでしょうか。

平野 そうですね、立ち上げ当初はどうかかわからないのに投資をしていただきましたが、現在は投資に見合うバックを真剣に吟味してからとなりました。会社を立ち上げて数年目からそういう状況です。自分達の会社が生き残ってこられた要因の一つは、お客さんの理想に沿うよう徹底したことです。また、当社は直接エンドユーザーさんではなくウェブ製作会社さんと組んでいましたので、デザインやホームページは作れてもシステムは作れないというお客さんから継続して取引いただけました。あと自分はネットワークエンジニアなのでシステムの構築や保守の面で生き残れたのではと思います。

現在20人の社員の9割がエンジニアです。レスポンスの早さ、融通の良さで大手と差別化できて、信頼を得られてきたと考えています。

研究室の先端技術を社会へ

川嶋 それでは若い大浦さんに伺いたいと思います。大浦さんはこれから起業するところですね。どのような形で進めようとお考えですか？

大浦 9月の頭くらいに会社を興す予定で所属研究室の徳田教授、李准教授と相談しています。会社からは研究室の成果も含めて社会に出していきたいと思います。最初は技術サポートの形で面談、メール、電話での技術的なアドバイスが主になります。

川嶋 具体的なお仕事の内容を伺えますか。

大浦 研究室では音声分野で二つの大きなソフトウェアをオープンソースで、つまり、誰もが利用できる形で配布しています。音声合成という音声を出力するシステムと音声を認識するシステムのソフトウェアです。携帯電話がニュースを読み上げたりパス停がしゃべったり、音声を発生する技術です。

ソフトはオープンですが、それだけで全てが完結するものではなく、使いこなすためには音声技術に関する知識が必要です。そのため企業や個人、研究者の方から質問のメールをたくさんいただきます。これに一つ一つ答えてゆくのは結構な重労働でして、こうしたことを扱う会社を作った方がよいのではないかということになったわけです。

共同研究も行っていますので研究室と会社の区分

けを決めなければいけません。相手の依頼によりこちらが手を加えたり、提案する必要のあるものに関しては共同研究でやり、会社は今後の1~2年は技術サポートとして小さい企業からの相談にミーティング等で応えてお金を戴こうと考えています。

川嶋 人間の耳は人の声を背景から選択しますが、例えばこのマイクはノイズも拾ってしまいます。そういういったフィルタリングもするのですか？

大浦 はい、それも含めて雑音をきったりとか例えば掃除機の音を除いたりとかします。

川嶋 そうすると今一番使ってくれそうなのはどこでしょうか？

大浦 この座談会に来る前、共同研究のミーティングをしていましたが、この場合はお年寄り向けの携帯電話のサービスです。例えば目の悪い方でもメールを音声にして読んでもらえるとかで、これは音声合成です。音声認識ですとカーナビゲーションシステムで運転中は手が塞がってしまうので、口で言ったことを聞き取ってくれるサービス等があります。

平野 ソフト自体はオープンソースなので自由に使用がかまいません。ただうまく使えない方には有料でサポートしますよということですか？

大浦 そんな感じです。

梅崎 私も専門は音声認識なのでわかるのですが、音声の認識とか合成は精度をあげるのが難しいですし、また組み込まれて使われるものですから非常に安く大量に組み込まれないと難しいんです。また、流れが非常に速いですので気をつけねばなりません。大浦さんの研究室は技術がありますし、ご提案の形態はうまくいくかもしれません。儲かるまでに少し



大浦 圭一郎 (I 17) 情報工学専攻博士後期課程

現在、(株)テクノスピーチ創業準備中。
所属する徳田・李研究室で開発されたオープンソースのソフトウェアを基盤とした音声技術のサポート業務を実施予定。

時間がかかると思いますし、当初の3年くらいは資金を出してくれる人がいるといいですね。

中途退社で起業、企業OBネットワークを構築

寺倉 今お話を聞いていて思ったのは、世代が違うとか私が古典的な部類であることです。ソフトウェアとかウェブと聞いてもなかなかすっと入ってこない、ギャップがあります。大学の中から起業を考えるなども、理解が追いつきません。

計測工学科を昭和50年に卒業しました。その後デンソーに就職し30年近くおり、2005年の3月に独立し会社登録をしました。3年もてば最高といわれ、実際に9割は潰れて行きます。それはソフト関連でなくてもそうです。今は独立して4年半が経ちなんとか3年をクリアしました。

デンソーでは技術部で製品の開発・設計を行ってきました。製品といいましても車に搭載されるものです。一つ例を申し上げますとレクサスに今も搭載されていますが、雨の時にその量を感知し、マイコンを利用してインテリジェントに判断するセンサーを設計しました。日本初でした。開発グループのリーダーだったのですが、このまま定年まで居ようとは思っておらず周りにもいずれ独立するよといって、皆はバカなことをと思っていたのですが、そろそろと思い独立しました。

仕事の中身はデンソーでの仕事がベースになっています。デンソーのOBが60名位おり、皆のスキルを武器に製造業の技術的な支援を行っております。支援の内容はものづくりの開発・企画から設計・品質管理まで、つまり上流から下流まで全てが対象です。研修などもしています。なぜこの仕事を選んだかという、現役の時バリバリと働いていたのに定年になった途端に元気が無くなってしまふ方が結構います。そういった方々に何かお役に立てることはないかと思ったことや、中堅企業を支援したりするとボトムアップにもなります。生き甲斐を与えることができ、大げさですが全体として製造業のレベルを上げることができるのではないかと思ったからです。

仕事で重要なのは情熱=ウィル、スキル、時流=トレンドです。情熱がとても重要です。良いことなんてそう続かないのです。後から後から問題が山積しますが迂回ではなく、正面から突破しなければならないからです。もちろんスキルは必要です。もう一つ、世の中のトレンドに合っていなければなりません。時流とウィルとスキルが大切なのです。日本中の中高年の方に生き甲斐と笑顔を実現するというビジョンを掲げてやっています。

アジアに進出、悪戦苦闘

川嶋 中国やアジアに進出していますか？

寺倉 最初はどこをターゲットにしようかと、国内か海外か考えました。日本の企業は海外へ出て行くのですが、技術的な問題から現地では重要な部品が調達できないのです。中国などは当然のことで東南アジア、ベトナムやマレーシアでも車の製造業はあるのですが、重要な機能部品は心配で買えないのです。壊れてはいけませんから。ゆえにアジアのボトムを上げればきっと日系企業の役に立つだろうと思ひ、じゃあ先ずアジアをターゲットにしよう、ニーズは一杯あるはずだと考えました。

そこで一人ベトナムやマレーシアへ現地資本の企業を調査に行きました。先ずジェットロにある企業リストを元に各社へ「これからのあなたに役に立ちますから、興味ありますか」という趣旨の手紙を書きました。合計40社以上の企業や公的機関からウェルカムの返事をもらい、社長達と会いました。そこで気がついたところを指摘しますと、皆メモをとり、ありがとうございますとお礼をするので、これは仕事になると思ってしまいました。これが素人の浅はかさで、マレーシアや東南アジアなどは社長が全て華僑の人なのですが、私など手の上で踊らされているようなものです。契約書なんて只の紙切れで何の役にもたちません。お金のかからないことはOKですが、かかるとなるとコロッと変わります。それに気づくまでに半年以上かかりました。それを知ってから国内での技術支援にしました。



寺倉 修 (F50) ㈱ワールドテック 代表取締役社長
S53 ㈱デンソー入社 機能品技術部設計室室長、開発室室長、
車載製品の開発、設計。
H17 ㈱ワールドテック創業。
デンソーOB技術集団で、技術支援、開発設計・品質・生産
技術等の技術課題を解決。
東大ものづくり経営研究センター統合型ものづくり研究会メン
バー。
著書：『設計力』こそが品質を決めるーデンソー品質を支える
もう一つの力』(2009年日刊工業新聞社)

二萩 「ワールドテック」を創業されたのは個人としてですか、それともデンソーが絡んでいますか？

寺倉 個人としてです。

二萩 60人の社員もご自分で集められたのですね。

寺倉 はい、出身企業におんぶにだっこでは独立ではありません。すべて自分でするのが独立ですね。しかしそれはとても大変で、お客様をつかまえるのも苦労しました。初めは想像以上で、まるで武士の商法でした。独立すること、お足をもらうということを理解するには時間がかかりました。デンソーでは、お客様と打合せをして「では一月後にうかがいましょう」となるのですが、一日一日が勝負になります。お金が入ってきて商売ですから、そうでなければボランティアです。PRにも苦労しました。

二萩 寺倉さんは自分がやってきた知識や経験を活かしての独立ですが、一番の問題は知財の保護の問題だと思います。いわゆる「ブーメラン現象」への抵抗ですが、こうした面で困りませんでしたか？

寺倉 まだそこまではありませんが、言っても良いレベルがあり、これ以上は言うてはいけないというところをわきまえています。本当のノウハウは言う訳にはまいりません。それは30年間お世話になった義理というものです。相手にとってはもの足りないかもしれませんが、そこは割り切っております。

技術力と人のマネジメント力で勝負

川嶋 それでは次に山口さんの会社についてうかがいたいと思います。

山口 私の場合は元々会社を始める前から私と同居していた仲間2人でソフトウェアの開発をやっていました。一緒にいろんな所に仕事を探しに行き、チームとしてやっているうちに、このチームはものすごく生産力が高いのではないかと気づきました。最初は下請けでしたが、だんだんと直接、お客様の会社と仕事ができるようになってきたのです。実は最初に会社を作った動機というのは税金対策でした。

ソフトウェア開発がメインです。IPA（情報処理推進機構）の未踏ソフトウェア創造事業に応募して技術力を試したり、100人規模の開発をコントロールする仕事の現場に3人で行って、100人のチームを如何に効率的に動かすかといったこともしました。

川嶋 100人のプロジェクトを仕切らせてもらえるということがあるのですか？

山口 そういう大きなプロジェクトには初めはなかなか入れてもらえないのですが、そのプロジェクトの最初2年はまったく成果がでていなかったようで、3年目にどうにかして欲しいと話があったのです。色々調べているうちに勝算がありそうだという事になり手がけることになったのです。

効率の良い設計法といった技術の他に、人をコントロールする能力を駆使しました。例えばこの人を説得するには誰を動かさなければいけないとか、どうやったら相手にしてもらえるか考えて、時には騒いでみたり、組織の中でネックになる人を追及したりなどの方法があります。邪道かもしれませんがそうやって立場の上の人に気に入られるなど、技術と全く関係ないところで頑張りました。

過去にうちで開発した大規模なソフトウェアの評判が大手の家電メーカーに届いて導入を検討したいという話が届いたりなど、技術と人をコントロールする力の両方でこれまでやってきました。

川嶋 心理学を使った人間のマネジメントですね。

山口 何の後ろ盾も無いですし、年齢的にも若いのでそうするしかないかなと。

川嶋 資料には、1000台のPCで処理するデータベースのことがありますが、そういったソフトウェアを開発されているのですか。

山口 そうです。たとえばOracleというよくつかわれているデータベースをご存じと思いますが、それに匹敵するか、それ以上の性能のものを開発して、使ってもらっています。Oracleでも1000台のPCをつなげて、ネットワークに分散した環境で動作させるのは難しいのですが、うちではそういうことができるものを開発しました。グーグルがやっているような仕事が、ちょっとした規模でできてしまいます。グーグルと同時期の開発でした。

うちは別にデータベースの専門ではなく、性能のよいソフトウェアを効率よく開発するという事でやっています。たまたまデータベースにもそのやり方を適用したら速いのができたのです。

ニーズベースで仕事をしています。開発したものを販売するようなことはあまりやってなくて、お客さんから開発の話がくると、それを一般化して他のお客にも使ってもらえそうなものを作って置く、そんなやり方です。いろんな分野で種をまいておいて、引き合いのあったものにアクションをおこそうというわけです。会社があまり大きくないので一つに絞らず、踏み出す方向を慎重に見定めています。



山口 陽平 (I ⑬) (有)来栖川電算取締役

名工大情報工学専攻博士後期課程在籍中。

H15 (有)来栖川電算を在籍中に友人2名と創業。ソフトウェア開発請負、技術支援を実施。開発した基盤ソフトウェア(仮想マシン・データベース・コンパイラなど)が注目されてきた。

川嶋 大きくしようと思いませんか？

山口 ぼちぼち大きくなればいいなと思います。難しい仕事ばかりで簡単な仕事はきませんが、価格競争がないので助かっています。

梅崎 請負と製品開発の割合はどれくらいですか？

山口 現在、7：3くらいです。昨年まで仕事がたくさん来ていてほぼ10割が請負でしたが、その中でもいくらかでも面白い開発ができますから、独自の開発が含まれています。それを入れれば5：5になるかもしれません。

梅崎 色々なベンチャーを見ていますが、最初はお金や仕事をくれる相手がいって取り敢えずやっても、研究・開発が後にずれていきます。ここを上手にコントロールしないとイケません。お客さんの要求を取り込むだけでは難しいですか。

山口 色々なお客さんから引き合いがありますが、最初に注目されたもの以外のことが商売になったりします。データベースのことでプレゼンテーションに行ったら「面白いことをやっているね」と別の話になったりします。タマは多い方がいいと思います。

川嶋 楽しみです。新しい商品の研究・開発で苦労しながら仕事が広がっていきますから。

梅崎 正社員は何人ですか？

山口 正社員5人、アルバイトが15人程です。これからもアルバイトから正社員をとっていきたいと思っています。

川嶋 ソフトウェアではアルバイトからよい才能を

持つ方を正社員にしてゆくことができるのですね。

山口 ある程度才能があれば、アルバイトとして雇い、育てます。そのための投資は惜しみません。うちでアルバイトとしてつとめた人なら、他社ならリーダーとしてやっていけると思っています。

川嶋 先ほど大きなチームをコントロールのお話がありましたが、社内の人についてもそういったことを大事にしてみえるわけですね。

退職後、新しい分野に挑戦

では、次に富岡さんのお話を聞かせてください。

富岡 皆さんのお話を聞いていても私だけちょっと違うのですが。私は40年近くサラリーマンをし、リタイアした後は安定した老後を送ろうかとのんびりしていました。皆さんからみればお遊びのように思われるかもしれませんが。私が何故このようなことを始めたかというところからお話したいと思います。

私は外国との交流団体(The Friendship Force International)で役員をしていて、そこに仲の良いニュージーランド人の友達があります。彼は心臓バイパス手術を受ける大変な手術を受けたのですが、回復した途端、私より15歳も上なのに車を運転してアフリカ横断、ヨーロッパ縦断するなど、すごいエネルギーの持ち主です。私も老け込んではいられないと思っていたところへ台湾に工場を建てる話があり、日本・台湾・ロシアと共同でやろうとなったんです。しかしこれが空中分解してしまいました。

やれやれと思っていたところ、友人の紹介で東海ものづくり創生協議会・東海ナノプロセス・マテリアル研究会の実働グループ、ナノ粒子マニピュレーションコンソーシアムに顔を出していたのです。名工大の高橋実理事が世話をされていたものです。そこではいくつかのセッションに分かれ、参加者がめいめいプロジェクトテーマを出し合い、その中からコンソーシアムを組んで推進できるテーマの選定を議論したのです。私どものグループは、名工大の藤教授の提案テーマを共同で推進することになり、数社が参加してスタートしました。ところが気がついたら私一人になってしまいました。そのまま、諦めるのも癪だったのでその後2年程、手弁当で名工大のセラ研に通いました。これを高橋理事に開発代表者になっていただいてJST(科学技術振興機構)に提案したところ採択となったわけです。

それまでもそうですが、何度も投げ出そうかと思う度に、不思議と何がしか進展があつて、そういうことを2～3回繰り返した後、なんとかなるかとい

う段階に来たので去年の8月に会社をつくりました。実際には生産段階にはまだ進んでおりません。

私は鉄鋼会社からセラミックスという異質の世界へきましたので、まるっきり感覚が違います。セラミックスなど、鉄鋼材料中においては不純物なわけですから。とても苦勞をしましたが、昨年おもしろそうだと協力してくれる会社が現れました。機械製造のメーカーで場所と人的支援をしても良いという会社です。やっとこれからという段階です。皆さんのように現実の商売をしている段階ではありません。

川嶋 炭酸カルシウム中空粒子の製造技術ということですが、どのようなところに使えるのでしょうか？

富岡 例えばこの紙には炭酸カルシウムが一杯入っていますし、身の回りにいっぱい使われています。中空にすれば軽くなるということもあります。また空洞なので中にもものが入れられたり、全く別次元の材料になります。粒子を構成しているのがナノスケールの粒子で、粒子と粒子の間に微細な穴があいていますから、内部に入れたものを徐々に出してゆくといったこともできます。DDSなどはその1つです。熱が伝わりにくくなるので断熱材や、光が透過しにくくなるので薄くしても透けないものができるなどの効果が期待できます。そうすると用途はたくさんあるなということになったわけです。ようやくお客さんからも注目していただいて一緒にサンプルを作りながら、この先を探っています。

二杵 特にねらっている用途とかありますか？



富岡 達也 (株)NCAP代表取締役

未来材料創成工学専攻博士後期課程在籍中
S38 関東製鋼(現大同特殊鋼)入社、H12退職。
H14 東海ものづくり創生協議会 ナノ粒子マニピュレーションコンソ参画。
H17-20 JST大学発ベンチャー創出推進テーマ「炭酸カルシウム中空粒子の量産技術開発」(代表:高橋理事)を推進
H20 株式会社NCAPを設立。炭酸カルシウム中空粒子の製造技術開発を行う。現在量産へ準備中。

富岡 とりあえず紙とか塗料、インクとかを考えています。それと今セラ研で始めているのが酸化亜鉛のナノチューブです。これは蛍光材料とか紫外線カットといった別の用途が期待されています。またナノサイズの粒子を作っていくとおもしろい材料が一杯でてきます。あるサイズ以下になると可視光に対して透明になります。紫外線はカットするが熱は通すといった新しい用途ができます。

梅崎 現在の売上はどうですか？

富岡 今はサンプルを作ってそれを売っている段階で、助成金でなんとかかというところですよ。

二杵 富岡さんは定年まで鉄鋼でしょ？そこから全く違うセラミックス分野へ思い切りましたね。

富岡 いえ、思い切ったとは思っていません。たまたまチャンスに恵まれたというところですよ。私は皆さんのように大きな動機を持ってこれをやってやろうという感じではありませんでした。

二杵 我々も卒業生の中にはこういう方もいるだろうと思っていました。チャンスは全然違う方向からやって来ることもあります。

大学の研究成果を社会へ還元

川嶋 司会をさせていただいておりますが、私も会社をやっておりまして、自身の話をすこしさせていただきたいと思っております。

5年前に名工大を退職したのですが、1998年から科学研究費補助金をいただいて非線形超音波を使った非破壊検査の研究をしています。普通の超音波は、音響インピーダンスの境目を見えています。しかし、それですと金属中の不純物などは音響インピーダンスに違いが少ないため観察できません。たとえば原子力発電所で問題になる金属中の密着した亀裂などでは、ほとんど音響インピーダンスに差がなく、検出が困難です。それを解決する方法として非線形超音波という方法を研究してきました。科研費のプロジェクトなどで開発を続けてきたのです。

私は年金もありますから、役に立つ研究ができればよいと思いつながりながら企業の形にして続けています。企業にしてこれで5年目になりますが、最初の3年は経済産業省の外郭団体で原子力安全基盤機構からの資金をいただいて原子力発電所の安全運用についての基礎研究をさせていただきました。その後も原子力安全・保安院からの委託研究を続けさせてもらっています。建設後30年ほどになる発電所がいくつかあって、これからも増えてきますから、これをいか

に安全に使うかということが課題です。

利益を出すということになっておらず、富岡さんと同じように、助成金をもらって研究しているところ。文科省は退職するとあまり関係がなくなりますが、経産省などは退職した人間の小さな会社にも研究費を出してくれるということで、国も変わってきたなと感じています。

寺倉 超音波を使うのは非破壊検査と思いますが、アコースティックエミッション（AE）というのとはどう違うのでしょうか。

川嶋 AEはパッシブ、受動的。内部で亀裂が発生するときに起きる振動をキャッチするのですが、音が発生するのを待っている必要があります。超音波は強制的に波を入れてその反射波を解析します。

寺倉 内部破壊が起きる前に、起きそうということが分かるのですか？

川嶋 起こらなくても、どこかおかしいところがあれば、分かるのが最大の違いです。

第二現役のためのネットワークへ

富岡 私は山口さんのように自分で育てる必要はなく、ある程度のスキルを持った人ならかなり役に立ちます。ですからOBの方に声を掛けようと思いますが、これからそういう方がいっぱい出てきます。

二木 そういった人材はこれから大学でもたくさん必要だと思います。でもどこにいるかわからないと声を掛けられません。卒業生名簿だけでなく、経歴、特技がわからないと声を掛けられないのです。

富岡 私も昔のチャンネルがメインです。

二木 人材バンクのように登録してもらえればと思いますが、若い人達が協力してくれるのでしょうか。

川嶋 それは定年退職が近くなってこれからどうしようか考える5代になってからで、若い人は必要ないと思います。

山口 ここ数年、勉強会が流行っています。身の回りでも数々の勉強会があって、そこにコミュニティができます。そこで話をするといろいろ教えてくれます。そういったコミュニティを持つとよいのでは。

異業種交流会にも行きますが、まだそんなことしているのという人がいたりして、そういうところで少し話をするとう事に結びつくこともあります。

川嶋 中小企業庁が第二現役のための仕組みをつくったりしていますね。

二木 実務型教員として第二部で講義していただく人材を募った時も、この中小企業庁のマッチングの話を意識していました。

寺倉 その人がどういう仕事をしてきたかわからないと上手くいきません。ある時期やっていたとしても今それができるのかわかりませんし、キャリアを全部聞かせていただかないと判断が付きません。

県などの人材バンクで登録された方がPRする会を聞きに行ったことがあります。数十名のそうそうたるキャリアの皆さんでした。ところが、この人材バンクでのマッチング成功実績がゼロだということです。過去の経歴だけではなかなか活躍できません。

二木 名刺から肩書きが消えても個人としての能力が発揮できるという意識を持たないと駄目ということでしょうか。

寺倉 まさにそうです。過去の肩書きでやろうと思ったら大抵うまくいかないし、決裂もよくあります。

川嶋 さて、一通りお話を聞きました。では次に大学や工業会についても伺いたいと思います。

名古屋工業会、会誌へ一言

二木 手元にお配りした「ごきそ」は工業会の会誌です。総会の資料を掲載したり、毎年の新入生に3・4月号を配るのですが「先輩からの一言」を特集したものがありません。

寺倉 これは隔月発行ですが楽しみにしています。



**川嶋紘一郎（M40）名古屋工業大学名誉教授
（有超音波材料診断研究所代表）**

S51- 名工大教員、H11-13 VBL長、H16年3月 名工大退職。
H16年7月（有）超音波材料診断研究所設立。
同研究所では超音波を用いた工業材料内部及び表面直下の異常部の非破壊検査・評価に関する技術開発に従事。
経済産業省原子力安全・保安院、(独)原子力安全基盤機構等からの受託研究を実施。
著書：「ものづくりのための超音波非破壊検査評価・検査」（養賢堂2009）、「非破壊検査工学最前線」（共立出版2009）

最近は特に楽しく読ませていただいています。

川嶋 思い出話ばかりでなく、大学が今どうなっているのかOBとして知りたいのではないのでしょうか。

二木 ただ同窓会ですから「おっ—あいつまだ生きておるか」といったのも残しておかないといけないと思います。大学の情報誌ではないぞという人もいらっしゃるのではないかと、心配もしています。

寺倉 大学の写真が載っていますと今はこんな建物になっているのかとわかります。近くであってもなかなか用事がないと来られません。

二木 是非、投稿をお願いしたいのです。例えば「こんな所でこんな苦労をした」なんて内容はどうでしょうか。投稿規定もたまに掲載されています。

平野 会員の比率はどのくらいですか？

二木 現在23%位で年々上がってきています。会員数は増えても卒業生自体が増えますから、比率はなかなか上がりません。東工大は3割いっています。

寺倉 なぜ皆さん入られないのでしょうか、不思議な気がします。

名工大在校生へメッセージ

川嶋 大学の在学生に対して言っておきたいことがありますらお願いします。

平野 社会人になって社員を抱えると日銭を稼がなくてはならず、やりたいこともできず一日があつという間に終わってしまいます。時間がある学生ときにはその時間をフルに活用して人的ネットワークを築くとよいと思います。アルバイトで時間をつぶしたり、卒業を目的にするのはもったいないです。

山口 大学ではこんなことどんな役に立つのか、ということもありましたが、とにかく勉強しておいた方がいいし、いろんなところに行って目立つことをしていればその内に声がかかります。好きでなくてもやってみたら意外と楽しいなんてよくあることですので、面白そうだったらトコトンやってみたらいいと思います。

平野 山口さんは勉強しておいた方がよいと言いましたが、僕は対照的に勉強が好きではなくて単位もギリギリでした。ただ自分が好きなことに対しては目標に達するために打ち込んできました。

川嶋 知的好奇心がどれだけあるか。興味がわいたらその後、どこまでもやる意欲があるかですね。

山口 うちの会社だと、新しいことを一週間で覚えて臨機応変に対応しろ、と言っています。やったことが無くてもお客さんには出来ますと答えて一週間猛勉強したりします。そういうことをしていると相手の反応も速いですし、楽しいんです。

川嶋 会社ではわからんなどと絶対にいってはいけないし、そういう図々しさも必要ですね。

山口 自分の場合は学んだことと仕事が直結していったので続いたのだと思います。最適化コンパイラやデータベースの話がきた時は、こんな大丈夫？出来るのかなと思ったのですが、実際に実験して、計測していると段々面白くなってきて、いけそうだとなくなってくるんです。

梅崎 そういう面白さに在学中に出会えば一番いいのですが。

寺倉 いま聞いていて目標を持ってやるのは重要だなと思い、自分を振り返って大いに反省しています。私は学生の頃は皆がサラリーマンになるからとか、皆がこうだからと流されてきてしまいました。今の学生に何か言うとしたら、人生は長いようで短いので、本当に何をしたいのか、四年の間に目的を持って考えるというのが重要だと思います。

もう一つ、自分で決めてやることです。人生のコントロールで操縦桿を握るのは自分です。私を振り返ると、周りの環境に左右されて自分で選択する方向が狭かったと思います。自分で決めたようにみえても直接、間接に周りに決められたと思います。

10年後、20年後のマイルストーンを決めているとないのでは、30年後にあるべき姿は全然変わっています。大学の教育はハードだけでなく心の在り方を考える教育も必要だと思います。

梅崎 今の子は小学生の時から、親にルールを引かれて、生活もいつもめんどろを見てもらい、自宅から通っていますから、子供のときからの生活習慣が大学生になってもまったく変わっていません。私は集団生活が結構大事だと思っています。そうしたことないと精神的に強くなりません。戦争がよいとは思いますが、韓国の留学生が徴兵に出て戻った後の変化には驚きます。今の日本の子ども達は何か言う「僕出来ません」となります。

寺倉 「出来ません」と答える方は企業では歓迎されませんし、集団生活も必須です。学生に言いたいことでは二つあります。まず自分の人生は自分で決めること、もう一つはサラリーマンになるなら勉強よ

りも重要なものにコミュニケーション能力や人の和に入っていくかどうかが、人間的に魅力があるかどうかです。私も前の会社で多くの人と付き合ってきましたが、仕事が出来た人は人柄とか人間性が大きく影響しているのは間違いありません。

会社に入ると個人で出来ることなんて殆どなく、何人かのチームでプレーすることになります。総力でいいアウトプットを出すには人間力が重要です。

川嶋 イスラエルのキブツでは小さい頃から集団生活をやらせていますし。

コミュニケーション力、プレゼンテーション力、そして目的意識

寺倉 設計者に求められるのはお金儲けです。それにはお客さんとコミュニケーションが取れなければなりません。こんなにすごいことをやっているんですよというプレゼンテーションで安心してもらわねば設計者は務まりません。

梅崎 私の担当している大学院もプレゼンテーションがとても厳しく、それで辞めていく人もいます。今までエンジニアが社長になるのは少なかったですね。技術はあるけれど金儲けは経営者で、しゃべるのは下手だけれど、仕事はデキルと。最近が変わってきています。そういった才能のある技術者が経営者になることが増えています。

富岡 私の世代がそうでした。仕事をやっていればいいと。

寺倉 デンソーでは設計の仕事の半分は営業だと思いなさいと言われていましたが、お客さんのところ



梅崎 太造 名古屋工業大学教授
(有)梅テック代表取締役社長

S59 豊橋技術科学大学博士前期課程修了

S62 名古屋大学博士後期課程満期退学

専門は音声・画像情報処理工学、福祉デザイン工学。視聴覚障害児用の発話訓練装置、指紋照合装置などを開発、販売。

H20科学技術政策担当大臣賞

へ行って自分のやっていることを説明できないと仕事になりません。デンソーでもプレゼンテーションは厳しかったです。

梅崎 技術者は10仕事をして1しかしゃべれないといわれたりします。文系出身者は学生時代は遊んでいたけれど、1やったことを10しゃべります。だから今の学生には10やったら10しゃべるように言っています。

寺倉 技術者というのはハタリが言えないのです。心配な時には大丈夫ですとなかなか言えません。

富岡 私達はまさに逆でした。自信が無かったらしゃべるなどという世代で育ちました。なのにプレゼンしなければならぬ立場になりオタオタしました。プレゼンテーションがいかに大事かというのは、ある程度のレベルになると身につまされます。もう一つ思ったのはコミュニケーションの大切さで、この能力が無いと情報も入ってきません。

二木 東南アジアの工場で現地の人を見ると、目の色と目標意識が我々がかつて歩んだ道みたいです。先ほど寺倉さんも言われた、目標や目的は自分の手が届きそうにないところにおいて、そこに早く行きたいという気持ちが大切です。僕らの頃は早くパブリカ(乗用車)が欲しかったですよ。最近の人は恵まれすぎて何でも手に届き易いかもしれません。東南アジアの連中は相当ガツガツしていますが、今の日本人はガツガツさに欠けています。

川嶋 では若い方、反論をどうぞ。

大浦 いえ特にないです。(笑)

梅崎 会社を作ったことを公にさえすれば連絡が来て仕事が貰えると思ったら大間違いです。私は東京に行った時には一日に少なくとも3社まわるというノルマを決めています。目標意識とか目的意識が大事だと思います。

寺倉 志は高くといいますし、目標は高いことが重要です。前の会社の話になりますが、製品開発をスタートする時のコンセプトに「それは世界一か？」というのがあります。こじつけでも良いから世界一となる構築をしなければなりません。結果は別として目標を高く掲げ、一年後や五年後の売り上げを設定することで行動も伴っていくのだと思います。目標が低ければ行動もそれに合わせてしまうでしょう。

名工大、名古屋工業会の未来へ

川嶋 最後に大学と工業会に言っておきたいことはありますか。

平野 自分もこういう機会がなければ工業会がどういふものかも知りませんでした。また皆さんとも知り合えましたし、勉強会の実施もその一つです。あと電子メールとか使うことでコストをかけずにフォローする体制を作ることによって勉強会の案内もでき、寄稿もどんどん集めることも出来るのではと思います。

二杵 今いろんな大学で動き始めており、海外では既に始まっている終身アドレスという制度を大学側に働きかけています。皆さんアドレスを持っていますが、それを終身アドレスにして頂いてどこに動いても転送されて届くようにすればいいのです。生協のカードを卒業後もそのまま社会で使える工業会カードに切り替えてもらうというのは一つのアイデアです。そうするとカード会社に行き先を全て辿ってもらえてよいのではないかと思います。

山口 運用がネックになりますね。

川嶋 大学は卒業したら終わりだと思われていますが、大学と工業会がネットワークを組んで窓口になれたらと思います。在学生だけでなく卒業生に対してもサポートしていく必要があります。

二杵 会社で係長になる一番忙しい時期に同窓会がパツと頭に浮かぶようでないといけません。今は部長とか定年間近にならないと思いません。

川嶋 どの会社で、こんな役職になっているというように見れば、アクセスし易くすく、名工大の卒業生という信用もありますから利用できるのではないのでしょうか。もちろん、情報管理のしく



二杵 幸夫 (K39) 名古屋工業会常務理事

S39 (株)富士製鉄 (現(株)新日鉄) 入社
H4-7 中部経済連合会技術部長、H7 (株)新日鉄退職
H7-21 (株)岡島パイプ製作所専務取締役
H16- 名古屋工業会理事

みが必要です。

二杵 知りたい人が繋がる。いずれにしても工業会が何をやっているか見えないといけません。

平野 本当に見えないですし、工業会といわれても場所すら知りませんでした。

二杵 大学本部の中に同窓会が無いのは本当はおかしいのではないのでしょうか。

川嶋 大学側には卒業生まで含めて大学であるという意識が必要でしょう。

大学の役割、卒業生の責任

寺倉 卒業生にとって大学は母校であり、誇れる大学であって欲しいのです。世の中に問える大学、やはり知識であると思います。知識で誇れる大学になれるよう取り組んでもらいたいです。

梅崎 研究では随分誇れるようになりました。

寺倉 サイエンスとエンジニアリングのどちらを向いていくのか、または間をとるのか私にもよく分かりません。

川嶋 名工大はエンジニアリング指向になるのではないのでしょうか。ある程度旗印や役割をハッキリさせないと、少人数の大学であれもこれもは無理です。それと産業界にいかに関立しているか、働いている卒業生にかかっています。

二杵 つまり卒業生が頑張らなければなりません。大学にどうして欲しいよりも大切なことは、卒業生が名工大にどう貢献するかです。例えば還暦祝いと同窓会をしたらその会費の1割を大学に寄附するか、自分達だけ楽しむのはいけません。

寺倉 年に1万円位の寄附があってもいいのでは。

二杵 大学への寄附は損金になるのでしょうか。

川嶋 損金扱いになります。今年の年収が多いなと思ったら早めに寄附考えてください。

寺倉 高校の同窓会の案内には寄附の振込用紙が入っていますが、大学もそうしたらいいと思います。私も何回かに1回は最低金額ながら寄附をしています。

川嶋 それはやっぱり大学側が卒業生を大切にしている意識があってこそです。

二杵 工業会もまじめにやる必要があるでしょう。創立100周年とかなんとかでドーンと集めるのは大変です。ちょっとずつでいいから毎年集めることを考

えたいと思います。

キーステーションとしての大学へ

平野 卒業した後は大学の活用方法が分からなかったり、学生証も使えなくなりセキュリティーも厳重になって大学から拒否されているような感じがします。

川嶋 私もなっていますが34万円払って大学の共同研究員となれば準職員扱いとなります。図書館でも指定された研究室でも入ることができますよ。

平野 34万円という例はちょっと。

川嶋 そのくらいは会社の必要経費と思って。

二杵 図書館はそんなことしなくてもオープンですが、そういうことが周知されているかが問題です。

川嶋 就職の話もそうですが、名工大に相談にいったら多少はサポートがあればいいのですが。

二杵 大学と卒業生のネットワークを密にするにはどうしたらよいかという議論は大学側にもあります。今後そういう整備が進んでいくと思います。

川嶋 経験を活かしたいと思った時に、大学がキーステーションになってくれたらいいのですがね。

梅崎 工業会で同期の集まりや会合を飲み会でおこなったら、どうでしょう。親近感が持てるのでは。

二杵 今の工業会は本当に自転車操業でやっていて、何十周年での資金が底をついたら次の何十周年という感じですから、逆ですね。

平野 「ごきそ」ですが、紙で発行しているのをメールニュースだとかにして卒業生に送ってははどうでしょう。隔月の会誌をただ電子化するのではなく、付加価値をプラスできないかということです。例えば一通のメールに一件の広告を配信し、その広告はOBの人しか載せられないとかすれば発行部数があるので、相当な反響があるのではないのでしょうか。

二杵 この間の委員会でSNS（ソーシャルネットワークサービス）をホームページに導入して賑やかにしたらどうかという議論が始まったばかりです。

平野 工業会のホームページにSNSがあれば、卒業生が気軽に入会できてその中でOBの先輩達と知りあえる機会があることが広まれば、営業で困っている人とかの利用もあると思います。名工大の方だと素性がわかっていますのでいいと思います。

川嶋 優秀な若い人に知恵を貸してもらいましょう。

平野 大学でオープンキャンパスを週末などに開いてはどうでしょう。社会人で勉強したい方がいると思います。

川嶋 大学では高校生にはオープンキャンパスをやっていますが、社会人はやはり意識がちがいますし、社会人相手のオープンキャンパスのニーズもあるかもしれませんね。

二杵 名工大に優秀な高校生を集めることが大事ですが、そのためには名工大はこんな大学ですよと分からせなくてはなりません。大学はそういったことが得意ではありませんが、今年の入学式では父兄にこんな人がいることを知ってもらおうと有名な会社のトップを呼んで講演をして頂きました。営業活動としてはまだまだですが、いろんな所に名工大の名前をだしております。それに比べて工業会は全然できていません。そうしますとやはり先輩OBのネットワークが必要になります。

おわりに

川嶋 時間も押してきましたので、最後に一言ありましたらお願いします。

寺倉 先ほどから出ています名古屋工業会の人脈が、シンクタンクとして社会のためになるように活用してもらいたいです。なかよしクラブでは中々参加してもらえないでしょう。

富岡 私のようなものづくりのベンチャーから見るとすごく困ることがあります。こういった技術を持った方のアドバイスを受けたいと思うことが多々あります。ところが、優秀な技術者がいてもなかなかその人に辿りつけないのです。そういった時に名古屋工業会を通して相談できれば、そこに交流が生まれてとても素晴らしいと思います。

二杵 産学官連携センターはそういうチャンネルの一つです。それを名古屋工業会がやるべきかどうかわかりませんがチャンネルは必要です。大学のシーズを用いること以外に、会員同士の情報交換で解決できることがかなりありそうです。そこを工業会でやる必要があるのかもしれない。

川嶋 それでは時間となりました。お仕事のお話から、大学や工業会の役割へのご意見にわたり、大変意義深いお話を伺うことができました。こうしたご意見が大学、工業会を変えてゆくとと思います。本日はありがとうございました。

(編集 犬塚)

交流コーナー

エンジニアの卵である皆さんにお伝えしたいこと*

株式会社 豊田自動織機 諸井 隆宏 (M61)

1. はじめに

写真1は、自身が学生時代、研究室に配属になる前の春休みの写真です。親友たちと西表島でカヌーやサイクリング、ジャングル探検したときのワンショットです。学生時代は、ワンダーフォーゲル部でよく山登りをしました。現在では、これらの友人も世界を駆け回って回っていて、なかなか逢えないのですが、逢えますと今でも昔に戻った気がして悩みなどもふっ飛びます。

さて、私は成功もしましたが、誰もやったことがない新しいテーマに取り組むことが多かったので、失敗や挫折も多く経験しました。挫折の連続だったと思います。高い志を持っていないと小さな失敗でも挫けてしまいます。心技体、これらのバランスがたいへん重要です。挫けそうなとき、マッカーサー元帥が座右の銘としていたサミエル・ウルマンの『青春 (Youth)』の詩を読むようにしています。この詩は、昭和天皇がマッカーサー元帥を訪問したときに壁に貼られていた詩で、マッカーサーの友人の大学教授から送られたものだそうです。この詩に興味をもたれましたら、『マッカーサー、青春、Youth…』で検索してみてください。

社会人になってしばらくしてからからも、3年間、母校である名工大大学院の博士後期課程で、お世話になりました。このときの研究テーマは、自動車用補助暖房装置『ビスカスヒータ』の実用化に関連するものでした。このヒータは、回転円板の両面の狭い隙間に高粘度シリコンオイルが封入されており、流体摩擦で熱を発生させます。ウォータージャケット

トを有しており、流体摩擦熱をエンジン冷却水 (LLC) に熱伝達し、LLCを迅速に温めることができます。また、このヒータはエンジンによりベルト駆動されるため、エンジン自身の損失熱分の一部も暖房に利用されます。



欧州では、灯油を燃やすカーヒータや電気ヒータが実用化されていますが、ビスカスヒータは安全かつコストパフォーマンスに優れるため、寒冷地仕様のランドクルーザなどに搭載され販売されました。

2006年にカーエアコン用コンプレッサに関連する特許で愛知発明表彰『愛知発明大賞』（2006年6月

青春
サミエル・ウルマン

青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、失ゆる情熱、怯懦を拒ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や、孤絶、不安、恐怖、失望、こう言うものは老いさす。老いを老いさせ、精気ある魂をも茶に落せしめてしまふ。年は七十であるうと十六であるうと、その胸中に燃え得るものは何か。曰く「驚異の愛慕心」空にひらめく星、その輝きにも似たる事物や思想の対する欽慕、事に成する剛毅な決意、小児の如く求めて止まぬ探求心、人生への歡喜と興味。

人は信念と共に若く
人は自信と共に若く
希望ある限り若く
恐怖と共に老ゆる
失望と共に老い朽ちる

疑慮と共に老ゆる

大地より、人より、美と喜悅、勇氣と壯大、偉力と重厚を受ける限り人の若さは失われぬ。これらの重慮が絶え、悲歎の白雪が人の心の奥までとびつき、皮膚の厚氷がこれを固くごさすに至ればこの時にこそ人は全くに老いて神の憐れみを乞う他はなくなる。

図1. 青春とは (故：サミエル・ウルマン)



写真1. 学生時代、西表島にて (1988年)



写真2. 世界初の流体摩擦熱を利用した自動車用補助暖房装置『ビスカスヒータ』

*本稿は平成21年7月9日に行われた機械学会東海学生会第172回講演会の講演を元に編集したものです。

15日)、中部地方発明表彰『日本弁理士会会長奨励賞』(2006年11月7日)を受賞しました。こうして、表彰されたことは光栄ですし、たいへん励みになっています。

もちろんひとつの特許で当社のカーエアコン用可変コンプレッサが、自ら波を起こしたわけではありません。これに匹敵するような特許は数々ありますし、開発・設計、生産技術、品質保証そして製造、営業の各部門や関連会社の多くの方の尽力で、カーエアコン用コンプレッサ市場を席卷するに至っており、代表でこの賞を戴いたものだと思います。

最近の名工大、豊田中央研究所、豊田自動織機の産学共同研究の成果を論文として公表してきました。森西洋平先生と玉野先生そして、豊田中研の方々と学部時代からの指導教官である伊藤基之先生にご協力を戴きました。自身はよい師匠に恵まれ、いろいろな方々から学びました。今もなお、ドクターの威信にかけて、博士の復権をかけて、こうした研究成果を当社の製品に織り込んで社会の役に立てていきたいと思っています。皆さんも人との出会いを大切にしてください。



写真3. 愛知発明大賞受賞式において

2. 地球温暖化防止に向けて

学部の卒業研究を終えて、大学院に入学する前の春休みに恩師の伊藤基之先生にお願いしまして、1ヶ月間、エベレスト街道を歩きました。

ネパール首都のカトマンズから、セスナ機に乗って、ルクラという村に行きます。このルクラの飛行場は、山腹を切り開いて作られています。飛行機は山の斜面を利用して離発着します。ルクラから、通称：エベレスト街道を何日も歩きました。標高が富士山と同じくらいのところにはナムチェバザールという村がありますが、そこを超えたあたりの丘から撮った写真(写真4)です。右手の大きな山はアマダブラムです。アマダブラムとは、母の首飾りという意味だそうです。

現在、エベレスト街道の傍らに地球温暖化によ



写真4. エベレスト街道を歩く (撮影：筆者、1990)



写真5. 愛地球温暖化防止に向けて (イムジャ湖)
出所：上記URL http://doraku.asahi.com/lifestyle/earthphoto/080707_photo17.html#photogallery

て、氷河が溶けてできてしまった自然のダム湖があるそうです。写真5は、ダム湖の一つイムジャ湖です。1960年代には、小さな水溜りだったそうです。それが今では東京ドーム32個分の水量を蓄えるまでに拡大してしまって、決壊寸前だそうです。決壊すると自身が歩いたエベレスト街道にあった村々が流れ、多くの方が亡くなる可能性があります。

地球環境問題には、地球温暖化による気候変動、資源・エネルギー枯渇、生物多様性の劣化、水や食糧問題、人口増大があります。今の学生さんが現役で活躍される2050年までに、こうした課題に適切な方策を実施しないと人類の未来はないといわれる方もおります。

真に豊かな社会には、本当は何が必要なのかを、今、本当に考えなければいけないと思います。2050年と言えば、自身は80歳を超えるという計算になります。自身は生きていないかもしれませんが。持続可能な社会を目指して欲しいと思います。

3. 豊田佐吉翁の自動織機そして、コンプレッサ事業

トヨタグループの創始者である豊田佐吉翁は、母親を少しでも楽にしてあげたいという思いから、織機の改良をはじめられたそうです。また、当時は機械と言えば外国製ばかりだったのだそうですが、佐吉翁は国産の優秀な機械を作って、国のために尽く

したいという大きな志を持って、23歳ではじめて織機に関する発明をしました。その後、日本初の動力織機や自動織機、独創的な環状織機などを発明していきます。

名古屋駅の近くにある産業技術記念館には、復元された環状織機が展示されています(写真6)。スケールの大きさと独創性に圧倒されます。「その障子を開けて見よ。外は広いぞ」と佐吉翁は言われたそうですが、人生観が変わるように思います。

そして、佐吉翁は最初の発明から実に34年かかって、G型自動織機を完成させ、このG型自動織機を製作する会社ということで、豊田自動織機製作所を創立。わが国の機械産業の発展・近代化に貢献しました。当社を含む、トヨタグループの事業の多角化の根底には、豊田綱領にある「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」というものがあるからだと思います。当社の常務だった豊田喜一郎さんが当社の中に自動車部を設立しました。自動織機で培った鑄造技術があったからこそ、エンジンブロックなどの鑄造が可能となり、今日のトヨタ自動車を興していくことができたのだと思います。

1924年完成の「G型自動織機(無停止杼換式)」



写真6. 環状織機 (1906年)

は、よこ糸が尽きる寸前に高速運転のまま機械を止めずに、よこ糸を自動的に補給し、たて糸やよこ糸が1本でも切れると機械が自動停止します。普通の自動化した機械は一旦、不良品を作ると人間が止めるまで不良品をつくり続けます。G型自動織機(無停止杼換式)は、本学の大先輩である大野耐一さん(トヨタ自動車・元副社長)が考案されたトヨタ生産方式の根幹である『自動化』の考え方である機械に人間の智恵を入れて、不良品を作らない、不良品を後工程に流さないというのを、既に具現化していたと言えます。

我々のコンプレッサ製品開発の歴史も、豊田佐吉翁の製品開発の歴史によく似ています。まず、カーエアコンの冷房の原理を説明します。この原理は逆ランキンサイクルと呼ばれております。エアコン回路には冷媒(一般的なのがフロン)が充填されています。この冷媒の液体をエバポレータと呼ばれる熱交換器内で蒸発させ、周囲から熱を奪うことによって、キャビン(車室内)を冷却します。エバポレータで蒸発しやすいように、エバポレータ上流には高圧の液を減圧する膨張弁があります。エバポレータで蒸発したガスをコンデンサと呼ばれる熱交換器で冷却して、再び液体に戻し、循環させるのですが、気体を液化させるためには、気体の熱を奪ってやる必要があります。気体を圧縮して圧力を高くしてやれば、比較的容易に液化することができます。この圧縮を担当するのが、当社のコンプレッサーです。

1960年にカーエアコン用コンプレッサー(3気筒クランク式固定容量)生産開始して以来、自動車の増加とともに徐々に事業を拡大して行きます。1960年代、当社はエンジンと同じクランク式、そして1964年には固定容量斜板式コンプレッサーを完成させます。1981年には6気筒から10気筒固定容量斜板式を完成させます。この10気筒固定容量斜板式で事業を揺るぎのないものにし、固定容量ではベーン式やスクロール式、可変容量ではワッブル式といった様々な形式のコンプレッサーの研究開発も行い、市場投入していきます。そして、ついに35年目に事業を大きく飛躍させた片側斜板式容量可変コンプレッサーを製品化、2年後に、これをベースに電磁クラッチレス化して、競合他社を引き離すこととなります。私は入社後すぐにこの新製品開発に携わることになりました。この片側斜板式容量可変コンプレッサーの開発中に出願した特許が、平成18年度『愛知発明大賞』を受賞したということになります。受賞理由として、斜板の重心の設定という簡便な手段によって、クラッチレス化を行うことが可能とな

り、経済的に当社も含め地域社会を豊かにするとともに、ドライブフィールの向上、エネルギー負荷を低減し、自動車の環境性能（省燃費）などに貢献するなど、産業技術の発展に大きく貢献したからだと思います。

私はシンプルな構造の斜板式のメリットを生かした可変構造を新規開発に携わったのですが、それ以降の研究開発も含めて、いくつかの実体験を通じて、エンジニアの卵である学生さんにお伝えしたいことは、以下のとおりです。

①「人との出会いや繋がりが大切である」、②「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」、③「一度身につけた、智慧は今後にも役立っていく→一生もの」、④「先人の智慧を学んで、先人を乗り越えて、技術革新し、新しい製品が生まれる」、⑤「過去から未来へ技術は繋がっている。たとえ失敗しても、きっと何かに役立つときが来る」、⑥「失敗には大きな成功のヒントが隠されている」、⑦「正攻法だけでなく、従来の固定観念にとらわれないうで、あえて…することによって成功→逆転の発想」も重要、⑧複雑な構造のものは現実的でないので、実用上実施されることはなく、「簡便な手段によって、目的を実現」

4. おわりに

豊田自動織機は繊維機械事業、自動車関連事業と新しい基幹産業を作って、社会に貢献してきました。若い学生さんには、是非、次の基幹産業を興していくのだという大きな志をもって、欲しいものです。研究を通して学ぶこと、これに加えて、人間力も高めて、残り少ない学生生活を有意義に送って欲しいと思います。

とある老師が、『学ぶということ』は、まねることだと言われました。まず、先人に学び、先人に近づき、先人に追いつき、そして、先人を超えていくことです。三国志にてでくる有名な諸葛亮孔明が自身の子孫に残した言葉に『学ぶことで才能は開花する』というものがあります。名工大生は才能はお持ちですが、才能を開花させるには学ぶことです。そして重要なのは、何のために学ぶのか、働くのか、しっかりと志を持って、ということだと思います。自分自身だけでなく、公のために目標をしっかりと持って、努力して欲しいと思います。自身を振り返ってみると欲深ったり、志が小さかったり、志をしっかりと持っていないときに自身もよく挫けてしまったような気がします。

次にブルーオーシャンとレッドオーシャンについて、説明します。

ブルーオーシャンと言うのは、例えば、先ほどの可変コンプレッサのように性能や機能で他社を圧倒しますと、他社は追いつけないのですから、そのあとは何をやっても、誰がやってもうまくいく。一方、レッドオーシャンというのは、血みどろの戦いのことで、例えば、同じくらいの性能や機能の製品ですと、コスト競争が激化し、こういう状態では、コスト低減に追われるばかり、多くの人が巻き込まれ、仕事はたくさんこなさなければいけません。儲からない、自社だけでなく関係会社までも、まさに血みどろです。

私は中学生のとき、親友とブラインド将棋ができました。ブラインド将棋というのは、実際の将棋盤を使用せずに対戦相手と頭の中で将棋を指すことです。概ね当時の実力は初段くらいだったと思います。基本である定石（じょうせき）を覚えても決して、強い相手に勝てるわけではありません。しかし、基本である定石を心得ますと、様々な工夫をこらした独創性溢れる自らの戦法を繰り返されるようになります。独創性とオリジナリティを大事にして、デファクトスタンダードを獲る。そうしますと、先ほど説明しましたブルーオーシャンの状態となります。豊田佐吉翁や豊田喜一郎さんのように技術で持って会社を発展させる、そして世の中に役立てる。そして、地域社会を豊かにする。そういった志を持って、仕事をして欲しいと思います。繰り返しますが、まず、先人に学び、先人に追いついて、先人を乗り越えていくことです。若い皆さんの今後の活躍を期待しています。

志が高ければ、多少の苦難も立ち向かっていけた気がします。目標を達成するのが偉いのではなく、目標に立ち向かって努力することが重要です。失敗しても、開発したものがたとえ製品にならなくても、何年か後にきっと役立つときがくるはずですよ。

末筆ながら、本学・大学院・川合さんと草野さんには、本発表の事前準備から、ご尽力をいただきまして、誠にありがとうございます。



写真7. 講演風景

学生コーナー

私の国、リビア

情報工学専攻 Elghadi Abdulhakim Abdalla

リビアという国について聞いたことはあると思いますが、リビア人から説明を受ける機会はめったにないと思いますので、このページに説明させていただきますと思います。リビアは北アフリカの地中海に面する国で、1,759,540平方kmの面積のほぼ95%はサハラ砂漠に覆われています。東にエジプト、南東にスーダン、南にチャドとニジェール、西にアルジェリアとチュニジアと国境を接します。国としてのリビアはまだ新しい国です。1951年にイタリアから独立してわずか58年です。歴史的には貧しくて独立後すぐの事情はよくありませんでした。例えば、教育の状態は極めて悪く、当時の100万人のリビア人の中で16人だけが大学の学位取っていました。その中で弁護士は3人いましたが、エンジニアや医師は一人もおりませんでした。識字率は25%でした。健康状態はさらに問題がありました。例えば、人口の10%は目の病気のせいで盲人でした。そんな状態の中、1950年代に石油探索がはじまり、1963年に第一の石油輸出が開始されました。国が豊かになると、教育や健康に石油収入を費し、現在の識字率は86%になっています。健康の状態も無料診察制度のおかげで良くなりました。

リビアの社会は保守の社会とみなされます。女性はほとんどイスラム教の規則に従って髪の毛を覆いますがほとんど顔は覆いません。結婚式は女性と男性は個別の場所で行いますが、学校は男女は同じ所に行きます。リビアには家族はとても大切な



ものです。親や年長者に対する尊敬を皆が守ります。

リビア料理については、クスクスという北アフリカ料理が一番人気がありますが、トルコとイタリア料理の影響もあります。トルコからデザートと詰め物が伝わって、イタリアからピザやパスタが伝わりました。伝わったというのはそのままではなくリビア化されて伝わりました。例えば、リビア風なピザにはリビアの野菜や調味料が入ります。詰め物は牛ミンチの代わりラクダミンチも使います。

サハラの文化もさまざまあります。昔は輸送の為にラクダ隊商を使った砂漠人は現在、車もよく使います。車の種類の中でランドクルーザーが一番人気があります。砂漠の状況を最も耐える車とサハラ人が言います。そのためにランドクルーザーに感嘆して褒める詩も作ります。

名工大では情報工学専攻の北村研究室で手話の研究を行いました。この原稿が掲載される時には卒業してリビアに帰国しているはずですが、北村先生、研究室の皆さん、友人に感謝します。



写真1. リビアの風景



写真2. 研究室のメンバーと（著者は前列左端）

学生コーナー

パリからナゴヤへ 交換留学生として

創成シミュレーション工学専攻

Ophelie Memvie (EFREI, Paris, France)

私はフランス、パリの近郊にある工学系の大学、EFREIからの交換留学生です。名工大とEFREIは互いの学生に国際経験をさせるため協定を結んでいます。これはEFREIの学生にとって、新しい路を見つける大変よい機会、同時に留学期間6ヶ月は日本の文化を知るにもよい機会です。

私も滞在中、とても多くの経験をしました。もっとも印象的だったのは名工大のスタッフの活動、そして石橋教授の研究室運営、そして私のチュータについてももらった細谷和輝さんのことです。実際、皆さんは私が名古屋での生活に落ち着くまでを手伝ってくださっただけでなく、研究についても助言をくださいました。日本に来るまで研究をしたことがなかったので、これは本当に助けになりました。日本の方についてももう少し付け加えるなら、皆さんは大変親切で、常に気遣ってくださったことについては本当に驚きでした。

観光では、3月の花見の時期の名古屋、そして、名古屋周辺で体験したいろいろなお祭りではなんとも目を見張る色鮮やかな光景を体験しました。日本で経験したこんなにすばらしい春ははじめての体験で、特に、鶴舞公園での花見を楽しむことができました(写真1)。また、パリでは花火は年に3回だけあるのですが、花火大会を、友達と一緒に浴衣を着て楽しみました(写真2)。

もう1つ驚いたのは、古い日本が、現代の日本とこんなにもうまく共存していることです。たとえ2つのビルディングの間にある寺院でも、その輝きをまったく失っていないのです。

フランスにはめったにない、あるいはまったくな



写真1. 鶴舞公園での花見

い便利なものがたくさんあり、毎日の生活を便利にしています。たとえばフランスでは日曜はお店は閉まります。平日も午後8時前後には閉店になります。日本では日曜でもお店は空いており、コンビニエンスストアは週7日、1日24時間空いています。もう1つのよい例は飲み物の自動販売機です。日本ではどの街角にも見られますが、フランスでは地下鉄の駅にしかありません。毎日使われている技術の中にも日本の便利さが見つかります。駅の券売機で間違えて切符を買ったときに便利な精算機から、携帯電話のメールシステムにまで渡ります。これらはフランスにもありますが、日本のようは広まっていません。

最後は安全についてです。日本に来る前にも、とても安全な国であると聞いていました。しかし、到着しただけでも、こんなにも安全かと痛感しました。たとえば、自転車はたとえ鍵をかけてなくても大抵は盗まれません。

日本でのわたしの滞在について一言で言うなら、それは発見と驚きに満ちています。研究室で研究を行う機会を得、教授とチュータさんの手助けで大会に論文を出すことができました。犬山城や有楽苑などの多くの国宝や様々な寺社を通じて日本の文化も発見することができました。日本語を学び、また日本の人々のことも知りました。この一学期だけでは日本を知るには不十分です。日本の文化にはまだ知らない様々な面があるからです。是非、再度日本に来て、さらに多くを学ぶことができればと思います。(翻訳 犬塚)



写真2. 名古屋港の花火大会に出かけるところ(左が著者)

伊藤要研究室 (D、G) 同窓会報告

昭和時代末期の伊藤要研究室（工化・合成）最後の同窓会の報告です。

実は3年前にも研究室の同窓会を開催したばかりでした。研究室の先輩から年賀状で毎年のように同窓会の催促をされて、私が転職で韓国へ旅立つ前にはと思立って、2006年7月29日に池田章一郎教授を囲んで、サッポロビール浩養園にて開催しました。この時は私の前後5年間の卒業生が集れば良いとのつもりで募ったのですが、後輩がそのまた後輩へ連絡をしてくれて、昭和54年卒～63年卒までの、何と45名の総勢になり、久しぶりに会ってお互いの老けた顔を見ながら、昔話に花が咲いたのです。



2006年7月29日 浩養園

私は1年後にまた職を見つけて日本へ戻って来ましたが、そしたら今度は伊藤研最後の教員である池田先生の定年が近いとの事で、早くも再度開催の要請が来たのです。

池田先生が退官されて一息付いた4月29日（昭和の日）の開催日に決まり、幹事は私のほか、谷山八千代技官、天草聖二さん（S60卒）、中村（武内）理恵さん（S62卒）にも手伝っていただき、大学からもそう遠くない上前津の中華料理シルクロードに会場を決定して準備を進めました。この間に住所が変わられた方も多く連絡を

取るのが大変でしたが、前回に増して63名もの大人数となりました。卒業年では昭和49年卒～平成11年卒までに亘り、大学の総会でもなく一研究室の同窓会としては、稀に見る規模ではないかと思えます。

当日の飛び入り参加もあったり、会場が狭すぎて御不自由を掛けましたが、逆に親密になって大いに話が弾みました。最年長の後藤規文さんの挨拶に始まり、最後の池田先生のお言葉まで、予定の2時間はあっという間に過ぎ、それぞれいくつかのグループに分かれて2次会へと繰り出しました。因みに私達の班は、いつもの鶴舞公園内の萩之茶屋で、またダラダラと長話を続けたのです。

毎日の忙しい仕事を忘れて、お互いに30年前の学生時代そのままに戻って、屈託のない会話を楽しむことが出来ました。卒業後30年経っても皆が集れるのは、優しかった伊藤先生と気さくな池田先生を慕ってのことと思います。残念ながら海外赴任や地元行事などで参加できなかった方もおられ、また連絡が付かなかった方にも、この場を借りて御報告とお詫び申し上げます。

記：花井(山内)信洋（G56）



2009年4月29日 上前津シルクロード

E39同級会の報告

私たちE39卒業生は、11年ぶりとなる同級会を6月9日～10日に伊豆・下田の『濤亭』で開きました。幹事の期待を上回る21名が関東、中部、関西、四国の各地から集まりました。

参加者の中には卒業以来45年ぶりに再会した人もあり、顔を合わせた当初はお互いに「えーっと、君は…」と戸惑いましたが、1分もすれば昔の面影がよみがえり、学生時代に戻って話が弾みました。平日とあって海辺の宿は閑散としており、落ち着いた雰囲気の中で、宴会が始まりました。近況報告では、幹事からの「手短かに」という注意は全く無視され、時間が超過して二次会になだれこむ始末でした。学生時代から、論客、言い換えればしゃべりたがりの人が多かったという我がクラスの性格は、45年たっても変わっていないようです。まだ仕事に関わっている人もいましたが、大部分の人は職業人生を卒業しており、それぞれ新しい目標を見つけて充実した日々を過ごしている様子うかがえ、何よりでした。最後に幹事から「全員が名古屋工業会に入ろう!」という檄を受けつつ、5年後の再会を約して散会しました。

翌日は、下田市のボランティアガイドさんの案内で開国の舞台となった寺、「唐人お吉」ゆかりの寺、下田開港に関する歴史資料が展示された開国博物館、ペリー上陸記念碑等開国の歴史にふれた観光と、道中「なまこ壁」の土蔵や古い街並みを見ながらノスタルジックな気分の散策を楽しみました。

記：梅津寛、岩間紀男（E39）



平成21年度 バスケットボールOB会報告

恒例のOB会は今年で14回目になり6/13～14に行われました。今回は名工大体育館から吹上の居酒屋に移動して前夜祭を終了し、翌日はゴルフ組がプレーを堪能、来年の再会を約束してお開きとなりました。

【現役OB交流試合】

現役と若手のOBが東京大阪から駆けつけ総勢100名近く集まりました。卒業して30年以上隔てたOBにも最後挨拶の場をいただけるのは大変光栄です。

会誌「ごきそ」の1～2月号にクラブ紹介があり現役の年間の活動状況や東海地区でのレベルが分ります。日頃から交流がないので情報があるのはありがたいです。単科大学で男子学生が圧倒的に多く、以前から素質に恵まれたプレイヤーが多く入部しており、統制と組織力があれば常に常勝軍団になれる力があります。大学の生き残りのため一考の余地有りと思います。

【懇親会】

伊藤さん（E26）をはじめ13名が集まりました。例年今池の寿司割烹を利用していましたが都合で大学近くに変更「安近短」でした。メンバーも最年少でも還暦に近くなり仲間作りが課題です。

【ゴルフ交流会】

荻野さん（K45）のご好意により今年も瑞浪のベルフラワーCCでプレーを満喫、優勝で賞品と馬を絵なめにした小出さん（M48）「来年も頑張ります」と宣言。

記：山之上 誠（C49）



ベルフラワー CC 6.14

第199回 名工会東京支部ゴルフ大会報告

平成21年6月12日(金) 佐倉CCにおいて24名の参加で開催しました。梅雨入り宣言直後にもかかわらず好天に恵まれ、安定したスコアで伊藤禎治様(A35)がネット75で優勝、準優勝は西出輝幸様(M38)、第3位は黒田達郎様(C31)がシニア賞も合わせて獲得しました。伊藤禎治様は名工会での優勝は初めてとのこと、懇親会での満面に笑みを浮かべながらのスピーチにその喜びが溢れていました。この会が始まって半世紀となる記念すべき次回の200回大会についてどうするかを話し合ったが、別途特別記念大会を開催しようということで詳細は幹事会に一任されることとなった。

更に今年、田原敬造様(C31)と黒田達郎様(C31)が喜寿、西出輝幸様(M38)が古希を迎えられ、それぞれに記念品が授与されました。

記：竹林義之(D39)



第79回名工大ごきそ会

秋雨前線まっただ中の平成21年9月29日(火)、第79回名工大ごきそ会を会員17名の参加を得て名門桑名カントリーで開催しました。雨の予想に反して曇でしたが、風もなく時々日がさす汗ばむゴルフ日和となりました。予想通り、シングルプレイヤー梶原俊彦氏(B45)がグロス81で優勝、ベスグロも獲得、2位は理事長篠原陽史氏(M33)と、実力者が上位に入賞されました。

プレー後は和気藹々の内、表彰式、賞品授与、優勝者のスピーチ等和やかな雰囲気の中、寺西鋼三氏(K33)からは19・20年度ごきそ会決算書の報告、全員の承認を得ました。又、非常に残念ですが、松原照氏(C35)が一身上の都合により、今回退会となりました。次回、12月11日(水)三好カントリー東コースの開催を確認し、散会しました。

記：柴田 作(A42)



名古屋工業会の本部関係会議情報

○運営委員会 9月8日(火)18:00～

議題1 各委員会の活動について

各委員長から、今年度の活動状況を説明した。

2 役員改選について

来年度の役員改選スケジュール、役員候補者推薦要領、役員推薦委員会委員について説明し、理事会へ提案することを承認した。

3 その他

法人制度改革について、一般法人への移行を前提にして準備を始めることを理事会へ提案することを承認した。

○連携強化委員会 10月6日(火)18:00～

議題1 OBトップセミナーの開催について

OBトップセミナー開催について、実施要領を承認した。

2 実務型教員フォローアップ事業について

来年2月に開催する学生向けのセミナーについて、実施概要を承認した。

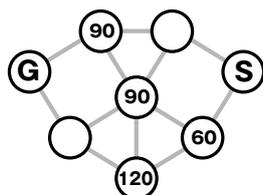
ごきそでパズル

今回のパズルは「角度メイズ」です。

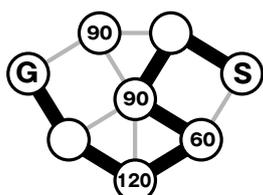
SからGまで線をたどってください。

- ・ 同じ○は1回しか通れません。
- ・ ○では書かれた角度で曲がります。
- ・ 数字のない○では好きに曲がれます。

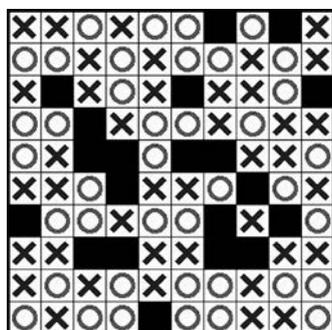
(例題)



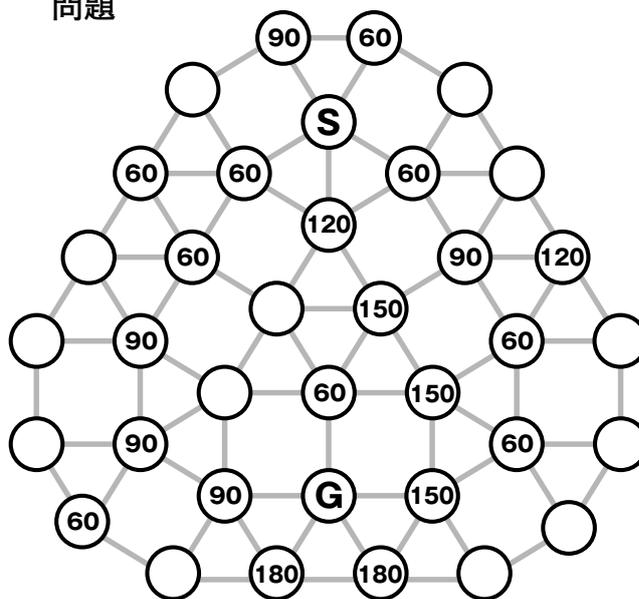
(答え)



(前回の答え)



問題



解答は次号に掲載します。

パズル：稲葉直貴 (EJ⑬) 作

計

報

| | | | | | |
|---------|-----------------|-------|-----------------|-------|------------------|
| 井口真澄 | H 21. 1. 22 | 笠井重行 | C23 H 20. 6. 23 | 平倉園衛 | M11 H 20. 10. 22 |
| 梶田二郎 | M16 H 21. 3. 4 | 堀田忠 | C30 H 21. 8. 13 | 山下茂夫 | C13 |
| 遠藤紘一 | A42 H 17. 4. 30 | 兼松成一 | E15 H 21. 8. 6 | 片桐禅 | D39 H 17. 5. |
| 中村(禰)経政 | M21 H 21. 5. 1 | 日比野千尋 | W15 H 21. 8. 10 | 松井富士夫 | D45 H 21. 7. 1 |
| 山田昇 | A14 H 20. 5. | 宇佐美辰雄 | A19 H 21. 5. 7 | 安達正巳 | W14 H 19. 6. |
| 渡辺一夫 | A 8 | 濱島操 | M16 H 21. 5. 11 | 高橋克己 | C16 |
| 尾崎潔 | M48 H 20. | 山口昌幸 | E32 H 19. 9. 25 | 田中正明 | W16 |
| 大河原達 | E14 H 21. 6. 20 | 山田恒一 | C29 H 21. 4. 13 | 大岩一三 | C34 H 20. 12. 23 |

謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

今年も残り少なくなってきましたが、不況は長引いており大学の就職も昨年より厳しくなったようです。そのような中ですが、今回の特集としては、企業を創業されて頑張っておられる名工大OBの方々やこれから企業を考えている学生さんなどを交えての座談会を企画しました。創業を通して得られた貴重な経験から示唆に富む話しも伺うことができます。また、工業会

の各支部の状況を今回と次回に分けて掲載いたしますので、各地域での支部活動とそのために頑張っておられる方々の姿を知ることが出来ます。次回には支部活動の後半と、企業のトップで活躍しておられるOBによる学生向けの講演会「OBトップセミナー」の記事も紹介の予定です。早いですが、よいお年をお迎えください。

(北村)

(株)ブライダルは
名古屋工業大学会員の皆様の
「結婚」を応援します。

31年の実績
(一橋大コースetc)



左のQRコードにて携帯サイトに
簡単にアクセスできます。
(一部対応しない機種がございます。)

名古屋工業大コース

これをご覧になったとおっしゃってくだされば

会員サポート費 **50% OFF**

ブライダルコース ¥220,500 ▶ ¥189,000 etc.

エクセレントコース ¥378,000 ▶ ¥330,750 etc.

●ミドル・シニアの方々のプランにも特典がございます。

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

- 成婚率は業界トップクラス。
- 入会審査有り
- 都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。
- お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。

株式会社 **ブライダル** お問い合わせ
(月曜定休) ☎0120-415-412
<http://www.bridal-vip.co.jp>

名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

センサとレーザマーカの総合カンパニー



取締役社長 吉村 元 (Es51)

各種F A用センサ (光電センサ・圧力センサ・近接センサ・変位センサなど)、
安全機器 (セーフティライトカーテン・セーフティドアスイッチなど)、
静電気対策機器、レーザマーカ、マイクロSCOPE、工業用内視鏡など

<http://sunx.jp/>

SUNX株式会社

東証一部・名証一部上場
愛知県春日井市 電話 0568-33-7211

“仕事を通じて世界に喜びと感謝の輪を広げる”

高級耐火物、黒鉛坩堝、ファインセラミックス、景観材
ニューカーボン材、環境機能材、金属マトリックス複合材

創造性を追求する

株式会社 TYK

代表取締役会長 牛 込 進 (Y33)

本社 ☎100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2
☎ 03-3201-0821 FAX 03-3213-3566

本部 ☎507-0818 岐阜県多治見市大畑町3-1
☎ 0572-22-8151 FAX 0572-22-0706



特許業務法人
英知国際特許事務所

EICHI Patent & Trademark Corp.

所長 弁理士 岩崎 孝治

— 知財の総合コンサルタント —



東京本部 〒112-0011 東京都文京区千石4-45-13
TEL : 03-3946-0531(代) FAX : 03-3946-4340

神奈川支部 〒224-0006 神奈川県横浜市都筑区荏田東1-23-2
TEL : 045-532-3827 FAX : 045-532-3828

北海道支部 〒078-8802 北海道旭川市緑が丘東二条4-11-12
TEL : 0166-65-2080 FAX : 0166-65-2080

浜松支部 〒430-0806 静岡県浜松市中区木戸町5-11
TEL : 053-461-5662 FAX : 053-460-6027

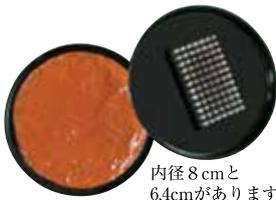
<http://www.eichi-patent.jp>

—いつも綺麗な捺印を—

印鑑や篆刻の印面に朱肉や紙粉が詰まり、捺印しても印影
が綺麗に写らない場合があります。

そんな時、この「朱おとし」をご使用ください。

印面を傷付けず汚れを取り、綺麗に捺印することができます。
ゴム印のゴミでも綺麗に落とせます。



内径8cmと
6.4cmがあります



名古屋市西区名駅二丁目3番17号

名豊工業株式会社

代表取締役 原田直輝 (D41)

電話&FAX 052-541-6919

広報委員会

委員長 北村 正 (Es48)

委員 [○：幹事]

- | | |
|--------------|-------------|
| ○犬塚 信博 (J62) | 横山 淳一 (Fb⑥) |
| ○中村 剛士 (EJ⑤) | 山口 啓 (C49) |
| 森 聡 | 宇佐美智伯 (SU⑥) |
| 秀島 栄三 | 平井 稔雄 (M⑤) |
| 北川 啓介 (A⑧) | 廣瀬 光利 (E50) |
| 糸魚川文広 (M61) | 森川 民雄 (W45) |
| 小坂 卓 (EJ⑥) | 若尾 尚史 (D⑥) |
| 山本 勝宏 (ZW⑥) | 道家 清正 (Y30) |
| 本多 沢雄 (ZY⑥) | 飯田 雅 (K46) |
| 鵜飼 裕之 (F52) | 杉江 紘 (F院44) |

会誌「ごきそ」のバックナンバーは、名古屋工業会のホームページ
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>でご覧いただけます。